

SORACOM で守る IoT のエンドツーエンド・セキュリティ

SORACOM Technology Camp 2020

本日のハッシュタグ

#soracom



@SORACOM_PR



<https://www.facebook.com/soracom.jp/>

- 名前：片山 暁雄
- 所属：株式会社ソラコム
 - 執行役員
 - プリンシパルソフトウェアエンジニア
 - 課金担当



公式ワークブック SORACOM実装ガイド

日経BP社より3月19日発刊
Kindle版/単行本版

SORACOMサービスとIoTデバイスの
利用方法を
9つのハンズオンを通して解説

Amazonにて予約開始

<https://www.amazon.co.jp/dp/4296105590>



Agenda

- SORACOMの解決するIoTの課題
- IoTセキュリティに必要な機能
 - デバイス自体の保護
 - アプリケーションの認証/認可
 - 閉域網での接続
 - 通信の監視・制御
 - SORACOMアカウントの保護
- まとめ

《 SORACOMが解決するIoTの課題 》

IoT (Internet of Things)

モノ

インターネット

クラウド



クラウドにつながるモノは、2020年に
数十億～数百億？

プロトタイピングから実運用までが容易に

モノ



Arduino



STM32 Nucleo



Raspberry Pi Zero



ESP-WROOM-02

クラウド



Amazon Web Services

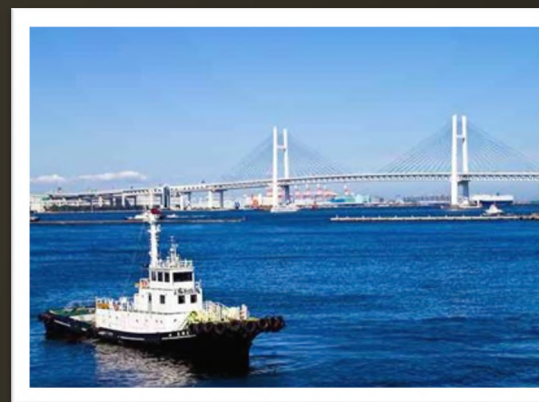
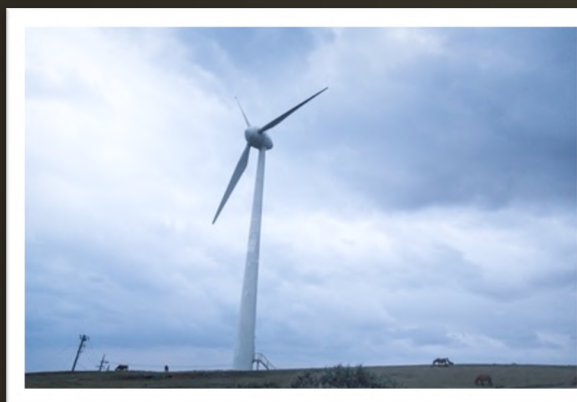
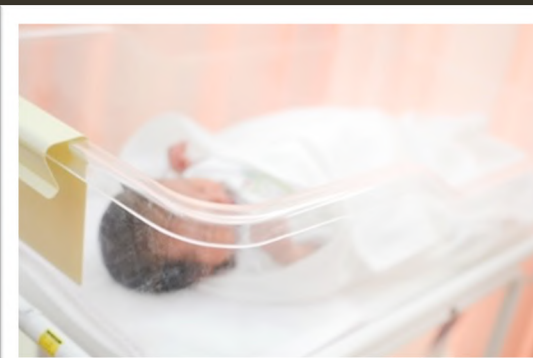
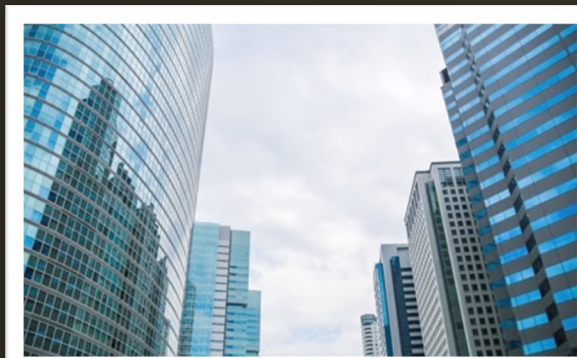


Microsoft Azure



Google Cloud Platform

IoTの活用が期待される分野

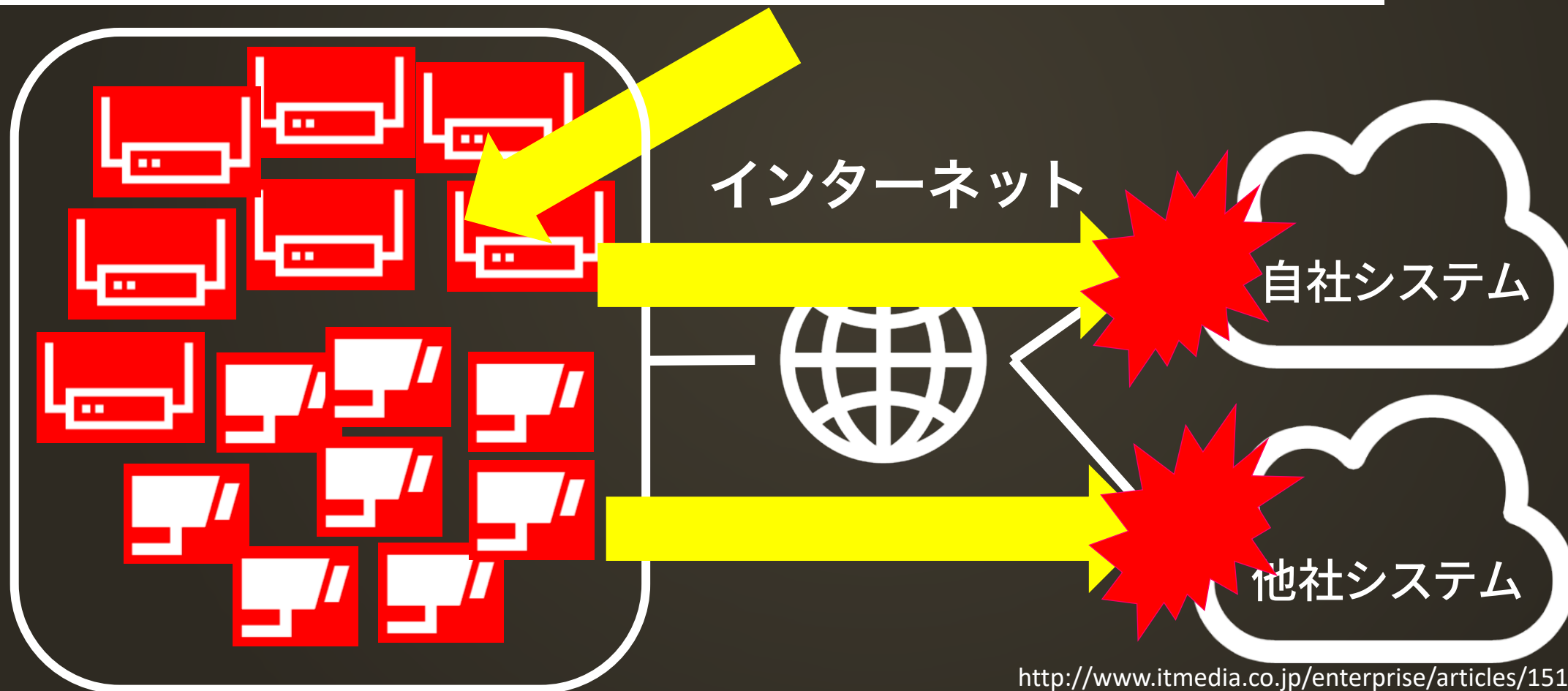


重要なビジネス基盤 / 社会基盤へ

多数メーカーの組み込み機器に同一の秘密鍵、盗聴攻撃の恐れ

影響を受ける製品はルータやIPカメラ、VOIP電話など多岐にわたる。HTTPS通信に割り込む中間者攻撃を仕掛けられて情報が流出する恐れもある。

[鈴木聖子, ITmedia]



イギリス政府 「消費者向けIoTデバイスのデフォルトパスワード設定の規制」を法案化

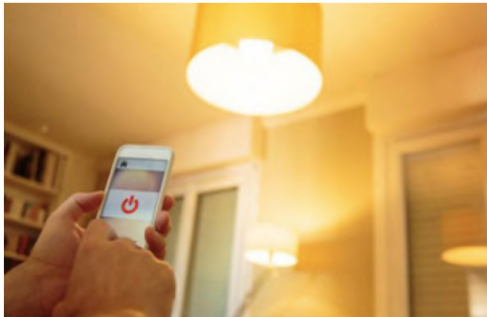
Press release

Government to strengthen security of internet-connected products

New legislation to improve security standards of internet-connected household devices

Published 27 January 2020

From: [Department for Digital, Culture, Media & Sport](#), [National Cyber Security Centre](#), and [Matt Warman MP](#)



A [new law](#) will protect millions of users of internet-connected household items from the threat of cyber hacks, Digital Minister Matt Warman announced today.

The plans, drawn up by the Department for Digital, Culture, Media and Sport (DCMS), will make sure all consumer smart devices sold in the UK adhere to the three rigorous security requirements for the Internet of Things (IoT).

These are:

- All consumer internet-connected device passwords must be unique and not resettable to any universal factory setting
- Manufacturers of consumer IoT devices must provide a public point of contact so anyone can report a vulnerability and it will be acted on in a timely manner
- Manufacturers of consumer IoT devices must explicitly state the minimum length of time for which the device will receive security updates at the point of sale, either in store or online

The sale of connected devices is on the rise. Research suggests there will be 75 billion internet connected devices, such as televisions, cameras, home assistants and their associated services, in homes around the world by the end of 2025.

モノ

インターネット

クラウド



セキュリティ
通信の管理

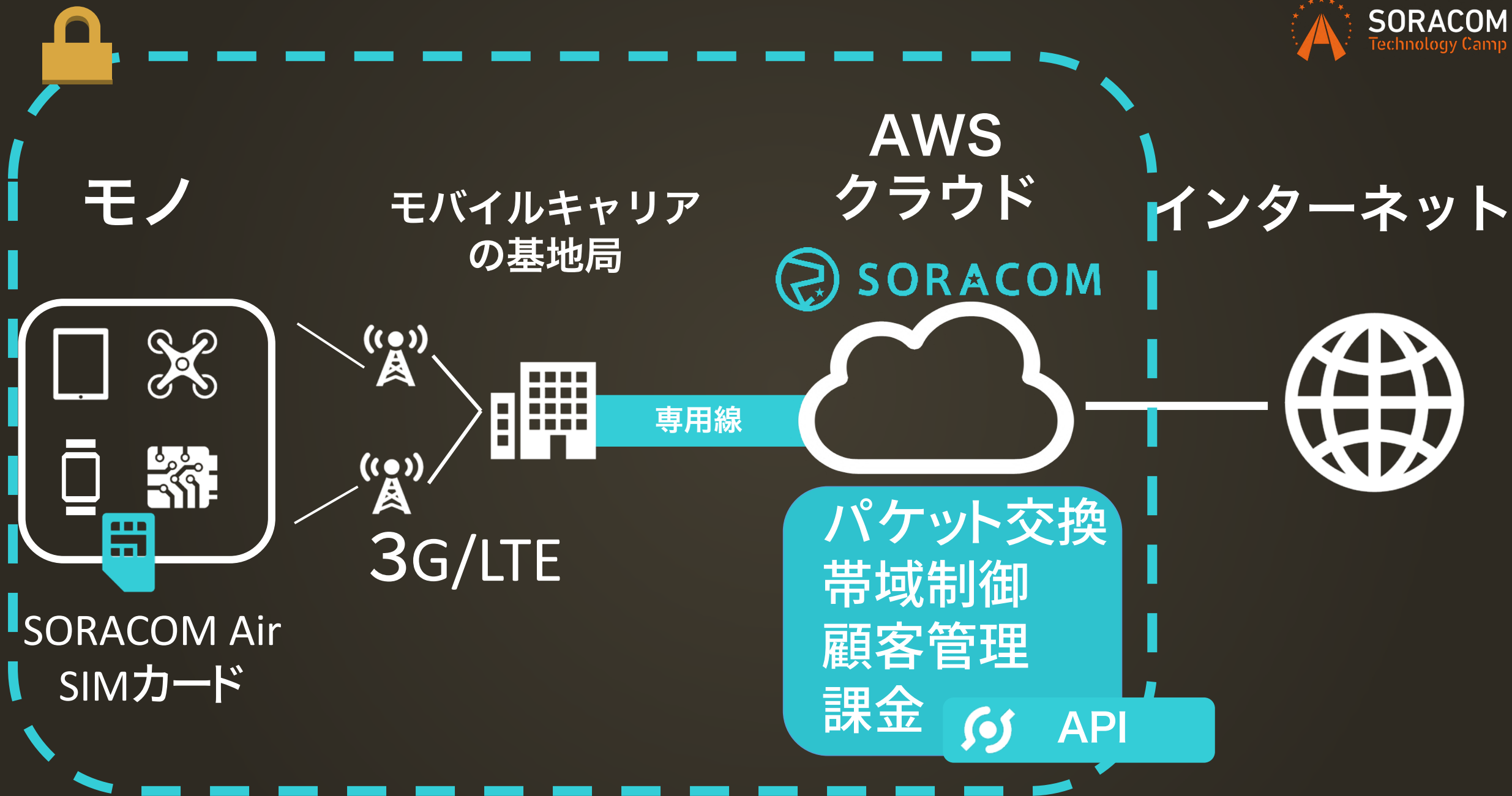
ソラコムでの解決策

モノ

インターネット

クラウド



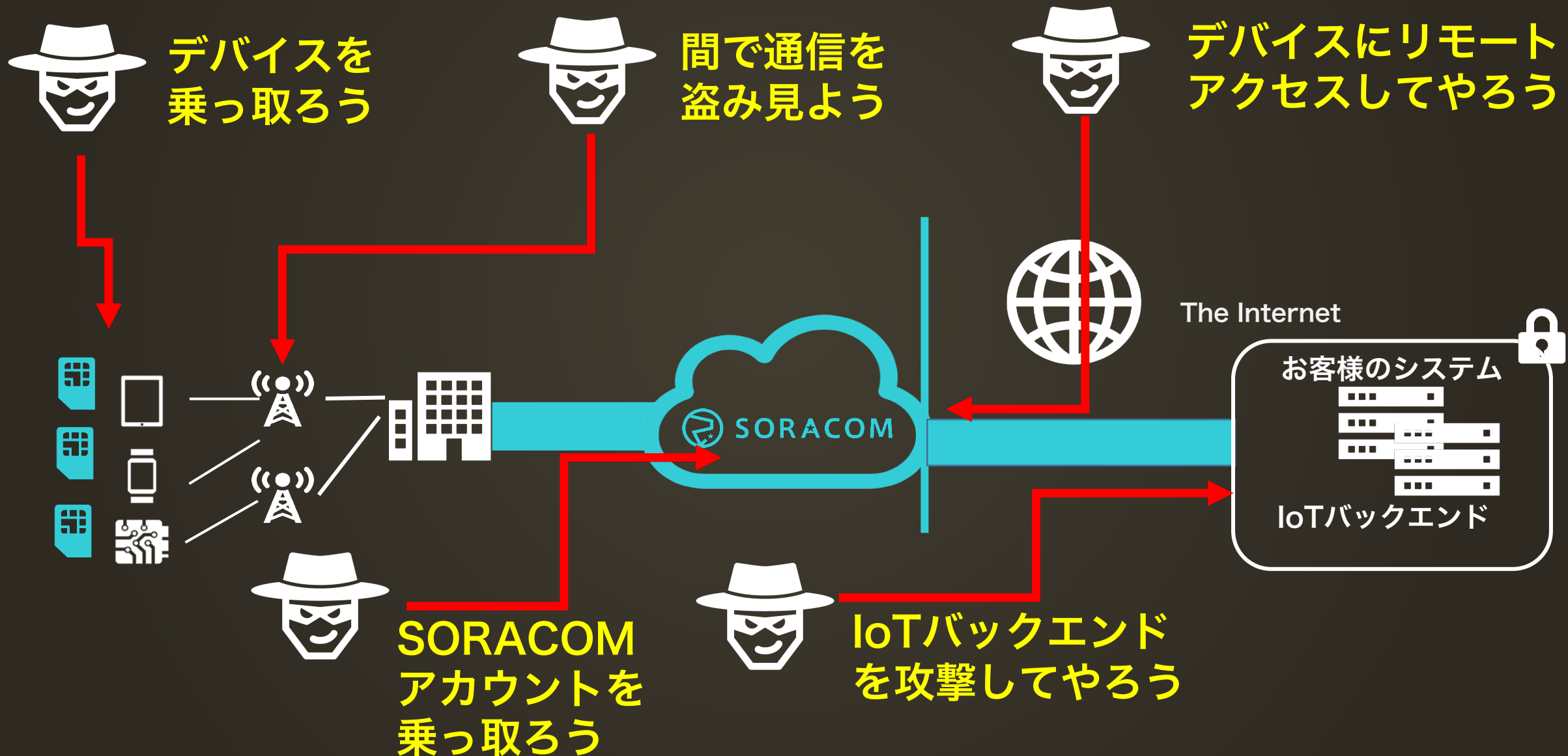


クラウドに直結する、 セキュアでプログラム制御可能な 通信を提供



《 IoTセキュリティに必要な機能 》

狙われるIoTシステム



ポイント

- 設計時からセキュリティについて考える
 - デバイス/サーバを必要以上にさらさない
 - なるべくデバイスにデータを置かない
- 費用対効果の観点も必要
- SORACOMにビルトインされた機能を使う



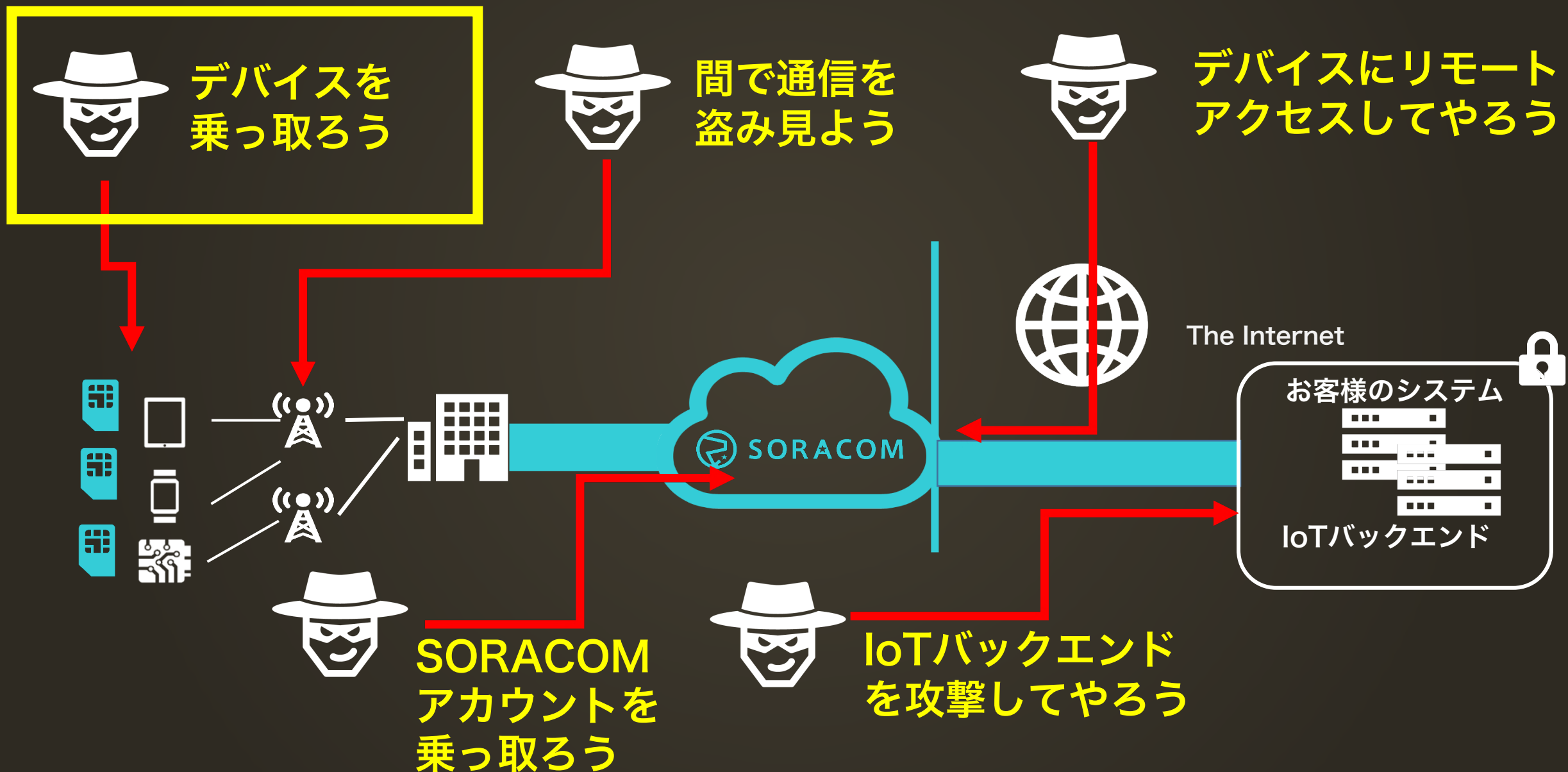
IoTテクノロジー民主化のためのプラットフォーム

インタフェース	Web インターフェース User Console	API Web API Sandbox	アクセス権限管理 SORACOM Access Management	ライブラリ & SDKs CLI(Go), Ruby, Swift	開発者サポート Developer Support
アプリケーション	データ収集・蓄積 SORACOM Harvest Data / Files	ダッシュボード作成/共有 SORACOM Lagoon	エッジプロセッシング SORACOM Mosaic		
	データ転送支援 SORACOM Beam	クラウドアダプタ SORACOM Funnel	クラウドファンクション SORACOM Funk		
	SIM認証・証明 SORACOM Endorse	デバイス管理 SORACOM Inventory	セキュアプロビジョニング SORACOM Krypton		
ネットワーク	デバイスLAN SORACOM Gate	透過型トラフィック処理 SORACOM Junction	オンデマンドリモートアクセス SORACOM Napter		
	プライベート接続 SORACOM Canal	専用線接続 SORACOM Direct	仮想専用線 SORACOM Door		
デバイス	USB ドングル / セルラーモジュール / マイコンモジュール / ボタン / カメラ				
コネクティビティ	IoT向けデータ通信 SORACOM Air for Cellular (2G, 3G, LTE) / LPWA (LoRaWAN, Sigfox, , LTE-M) / アップロード専用SIM				

SORACOM Global Platform

《 デバイス自体の保護 》

狙われるIoTシステム



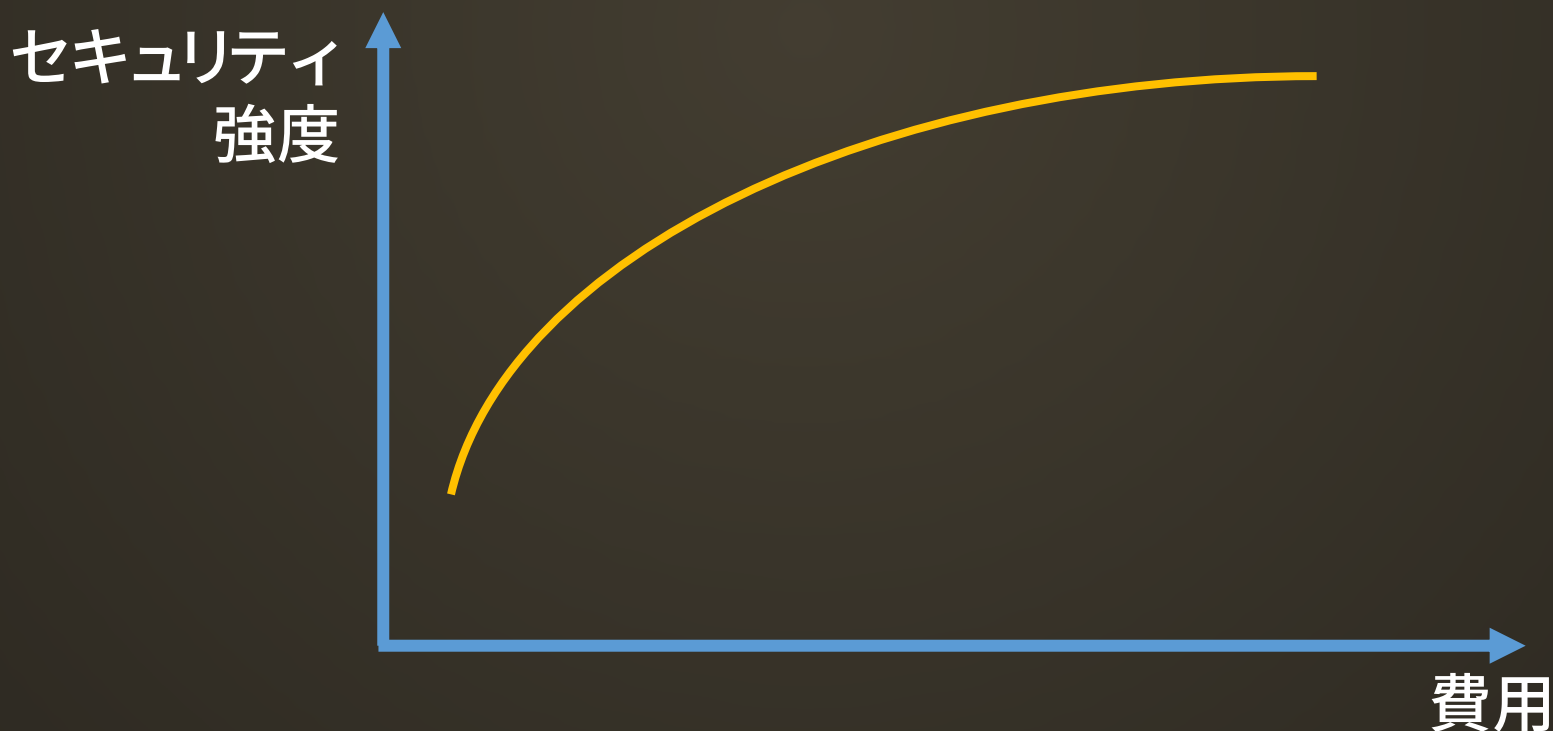
デバイスへの物理的な攻撃

- ・破壊・盗難
- ・不正侵入・改ざん

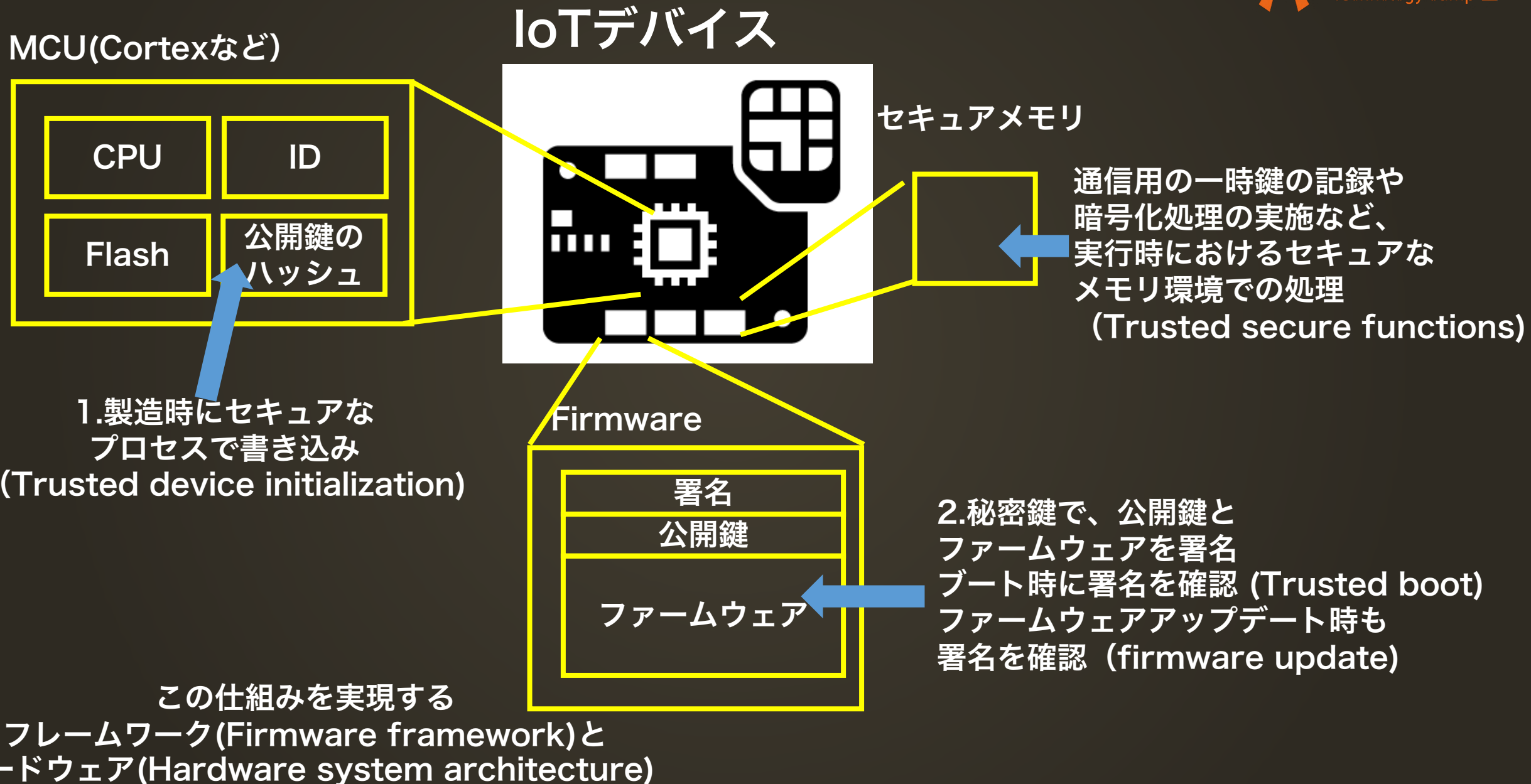
脅威		対策候補			
発生箇所	脅威名	対策名	他のガイドとの関係		
			OTA	OWASP	
コネクテッドカー	ECU	ウイルス感染	脆弱性対策	OTA5, OTA11	
			ホワイトリスト制御		
			ソフトウェア署名	OTA6,	OWASP9
		不正改造	耐タンパーH/W	OTA37	OWASP10
			耐タンパーSW	OTA9	
			ソフトウェア署名	OTA6	OWASP9
	ECU・センサー間通信	盗聴・改ざん	通信路暗号化	OTA2	OWASP8
	車載ネットワーク内（ECU・ECU間等）通信	盗聴・改ざん	通信路暗号化	OTA2	OWASP8
	OBD-II ポート	不正アクセス	脆弱性対策	OTA5, OTA11	
			ユーザ認証	OTA13, OTA14, OTA15, OTA16	OWASP2, OWASP8
			FW 機能		OWASP3
		不正コマンド	メッセージ認証		
		DoS 攻撃	DoS 対策		OWASP3

物理攻撃への対策

- 盗難・改竄発生時の損失をみながら、費用対効果で対応を検討することが重要
 - 物理的な損失と、データなどの論理的な損失
- 盗難・改竄がある前提で、発生時の対応を設計する



Platform Security Architecture(PSA)



IMEIロック

IMSI

SIMカードに格納されている一意な番号

IMEI

通信モジュールに格納されている一意な番号

インターネット

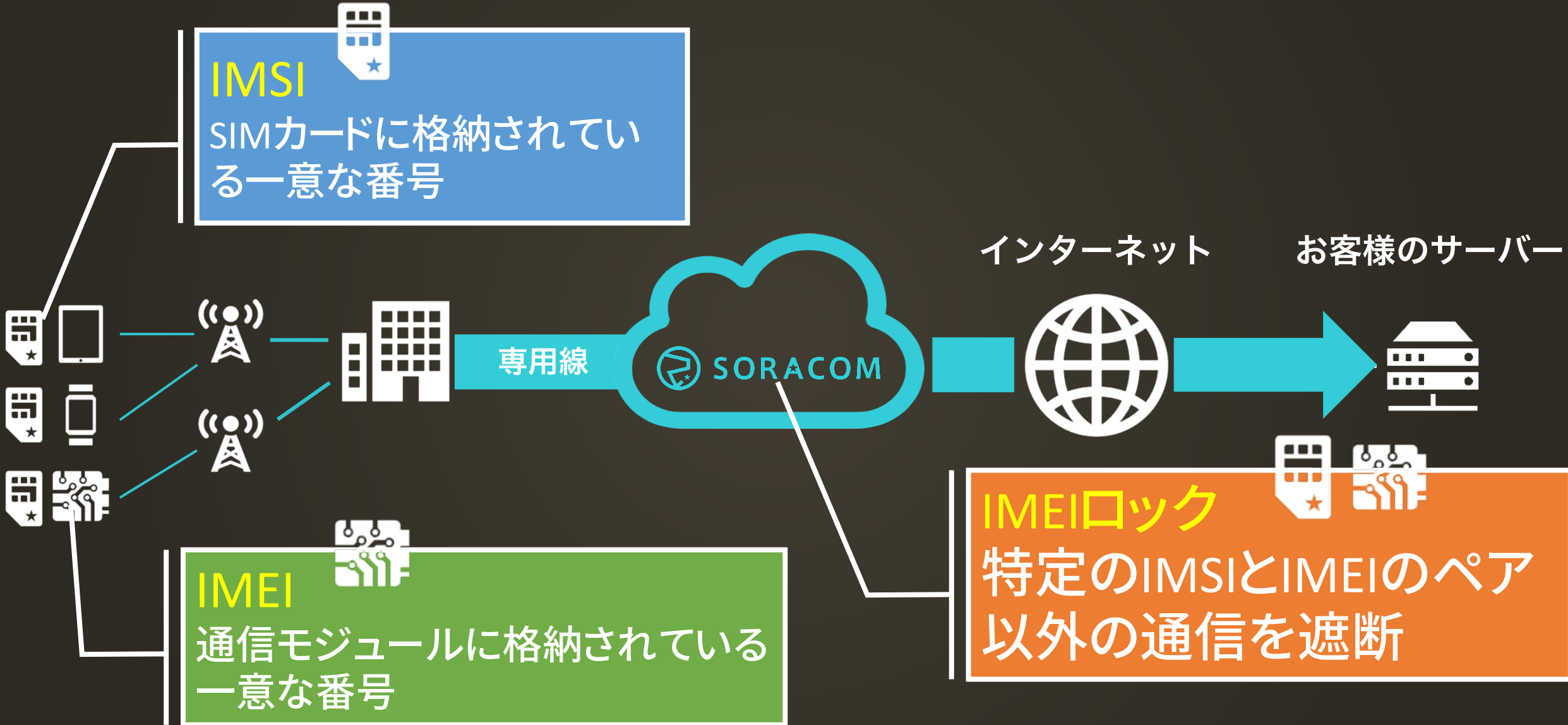
お客様のサーバー

専用線

 SORACOM

IMEIロック

特定のIMSIとIMEIのペア
以外の通信を遮断



日本 ▼

サポート ▼

poc+enterprise@soracom.jp ▼

COM
Camp 2020

すべて 🔍



1 - 6 件目



前へ

次へ

セッション状態 ?	プラン ?	サブスクリプション	速度クラス ?	有効期限 ?	IMEI ロック ?	TP ?
 オンライン	⇕	plan-D	s1.fast ⇅	(未指定)	 358088080680849	
オフライン	⇕	plan-D	s1.fast ⇅	(未指定)		
オフライン	⇕	plan-D	s1.standard ⇅	(未指定)		
オフライン	⇕	plan-D	s1.standard ⇅	(未指定)		
オフライン	⇕	plan-D	s1.fast ⇅	(未指定)		
 オンライン	⇕	plan-D	s1.fast ⇅	(未指定)		

位置情報表示

☐	440103224981970	松本	情報システム部管理グループ	🟢 使用中	オフライン	↕	plan-D	s1.standard	↕	(未指定)
☐	440103225416285	片山(タブレット)	情報システム部管理グループ	🟢 使用中	オフライン	↕	plan-D	s1.fast	↕	(未指定)
☐	440103225456536	松井	情報システム部管理グループ	🟢 使用中	📶 オンライン	↕	plan-D	s1.fast	↕	(未指定)

SIMの位置表示 (通信基地局表示)



SORACOMユーザー向けデバイス補償サービス



SORACOM
Technology Camp 2020



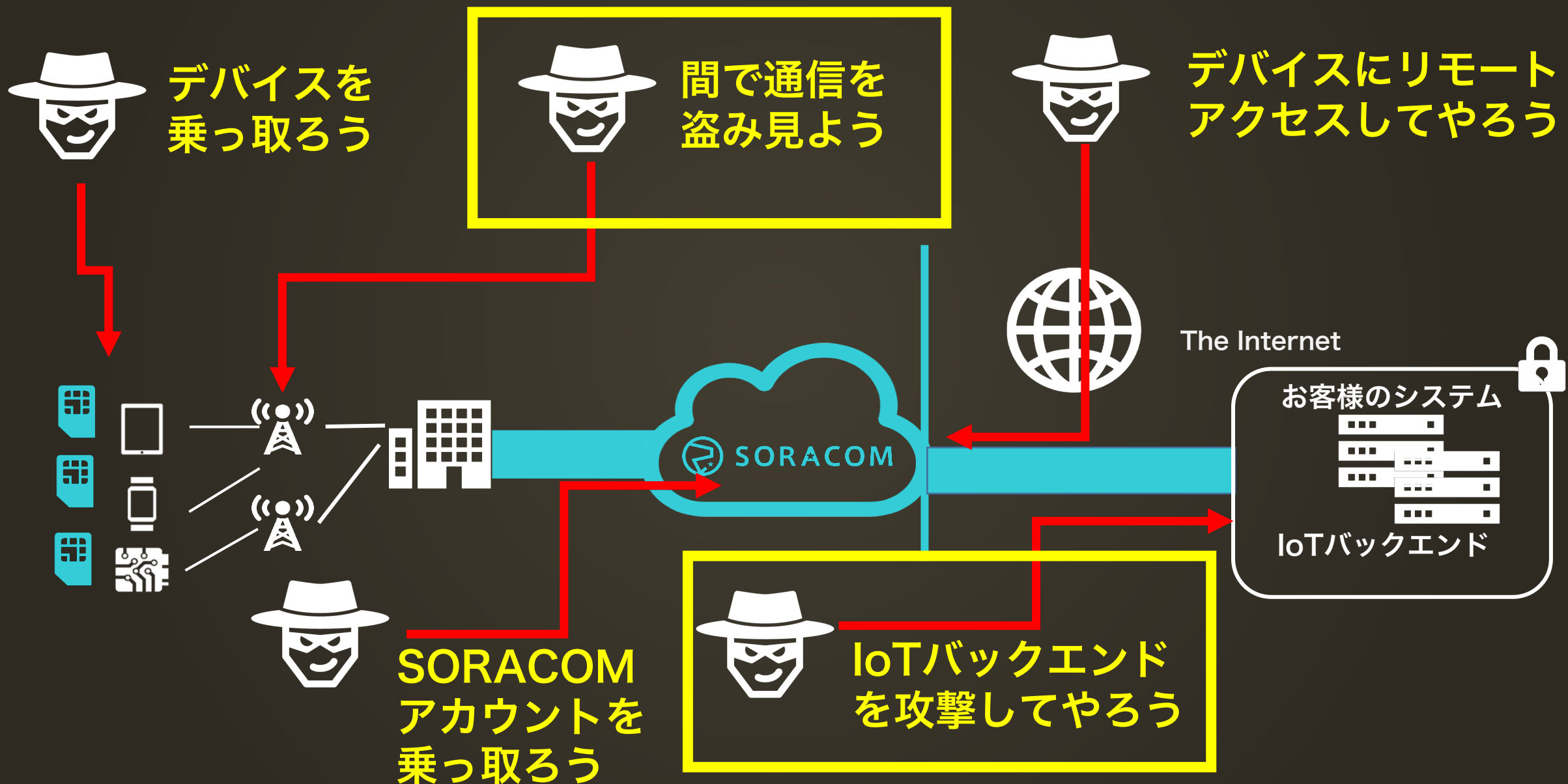
<https://iot-device-insurance.tokiomarine-e.jp/>



TOKIO MARINE
NICHIDO

《 デバイスの認証/認可 》

狙われるIoTシステム



- スマートフォンの場合
 - 人が認証情報を入力できる
- IoTデバイスの場合
 - IoTデバイス自身に認証情報を持たせる必要がある
 - 全デバイスで同じ認証情報 -> NG
 - デバイスごとに認証情報を持たせる
 - どのように認証情報を持たせるか？
 - 認証情報の漏洩をどう防ぐか？

SIMカード

- Subscriber Identity Module
 - 利用者の認証モジュール
- 高い耐タンパ性
- SIMごとに認証、暗号化キー提供
 - SIMごとにユニークIDが使える
- モバイル通信で認証と無線の暗号化を担保



《 アプリケーションの認証/認可 》

デバイスとクラウドの直接連携の問題点



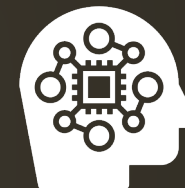
デバイス

セキュア&クラウドネイティブな
プロトコル

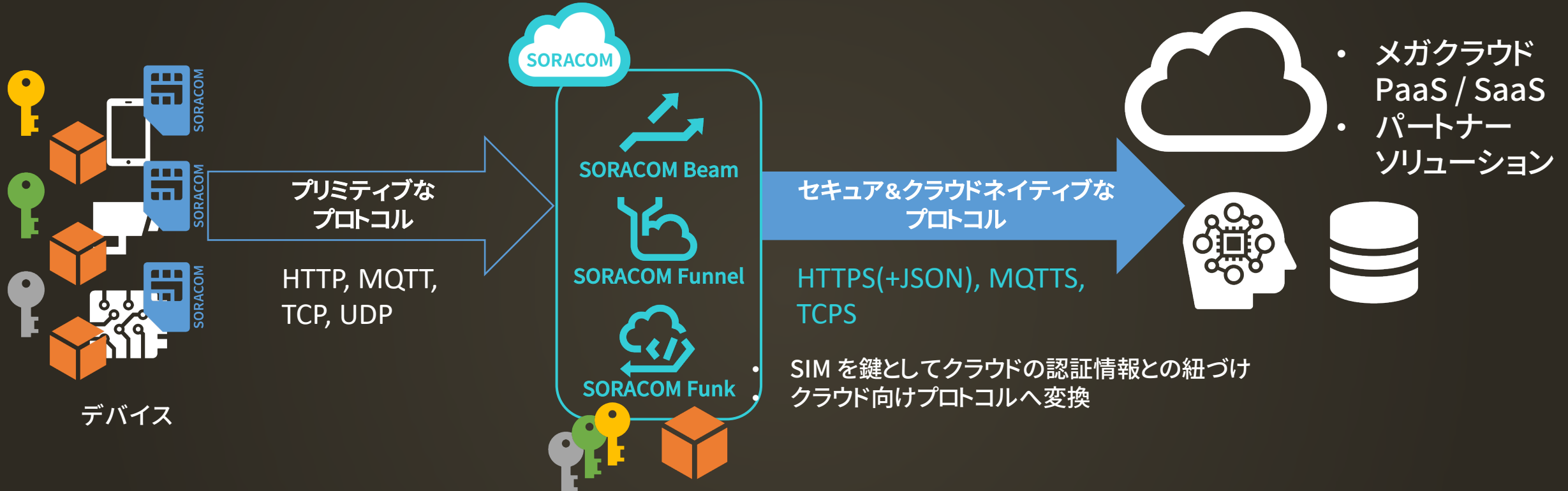
SDK や認証情報のインストール
証明書などの更新作業



- メガクラウド
PaaS / SaaS
- パートナー
ソリューション



SORACOM Beam / Funnel / Funk による 認証認可のセキュア化



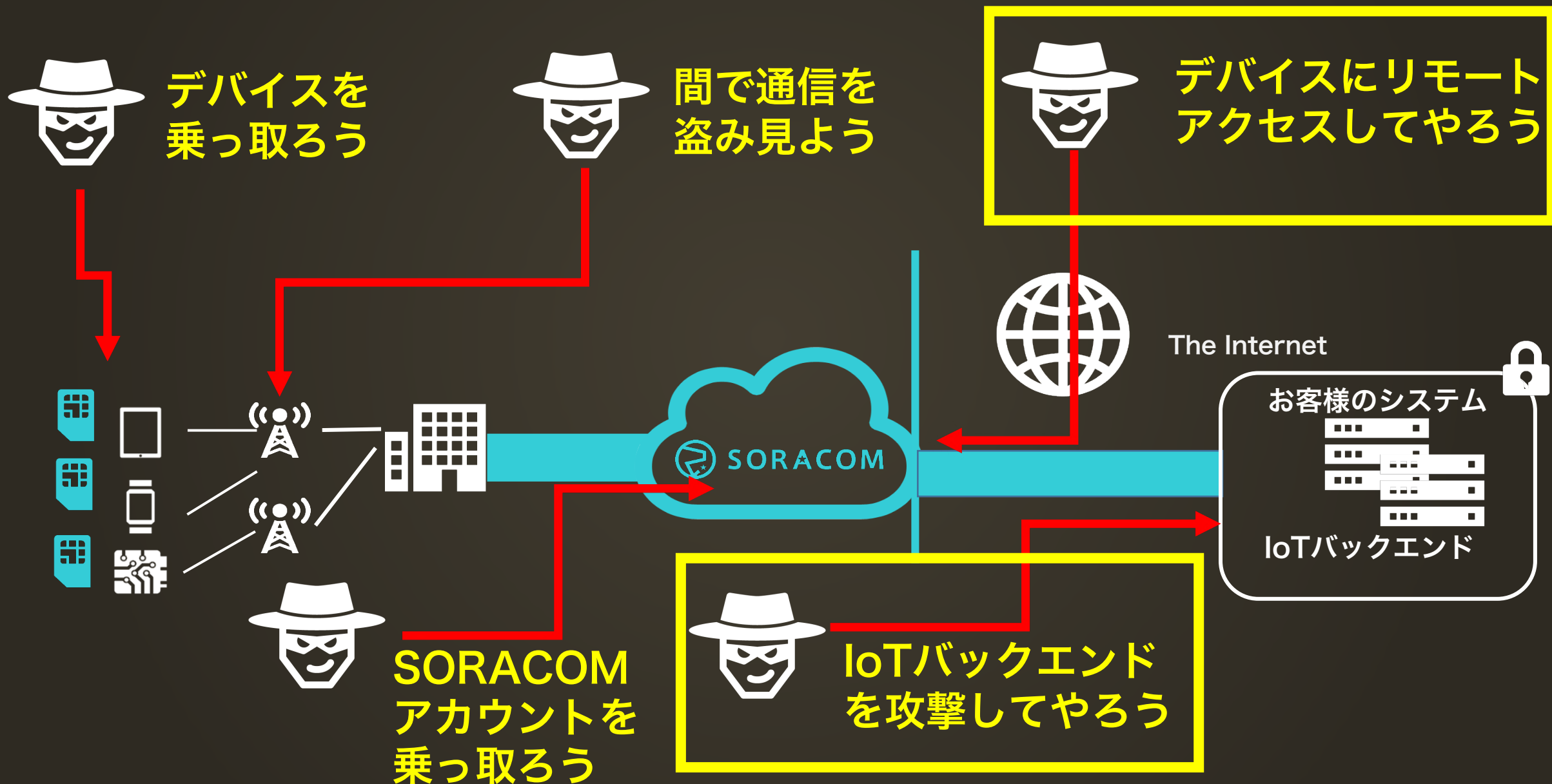
SDK や認証情報をデバイスから取り払ってシンプル化
セキュリティの向上
キーローテーションなどの工数削減

Beam/Funnel/Funkの利点

- デバイス側には、SIM以外の認証情報が不要
 - デバイスごとに認証情報を入れる必要がない
 - クラウドに接続するためのSDKが不要
 - デバイス側をシンプルに保てる
- 実現できない処理
 - 対応クラウドサービス以外へのアクセス
 - 例：Amazon S3
 - セルラー通信以外の利用

《 閉域網での接続 》

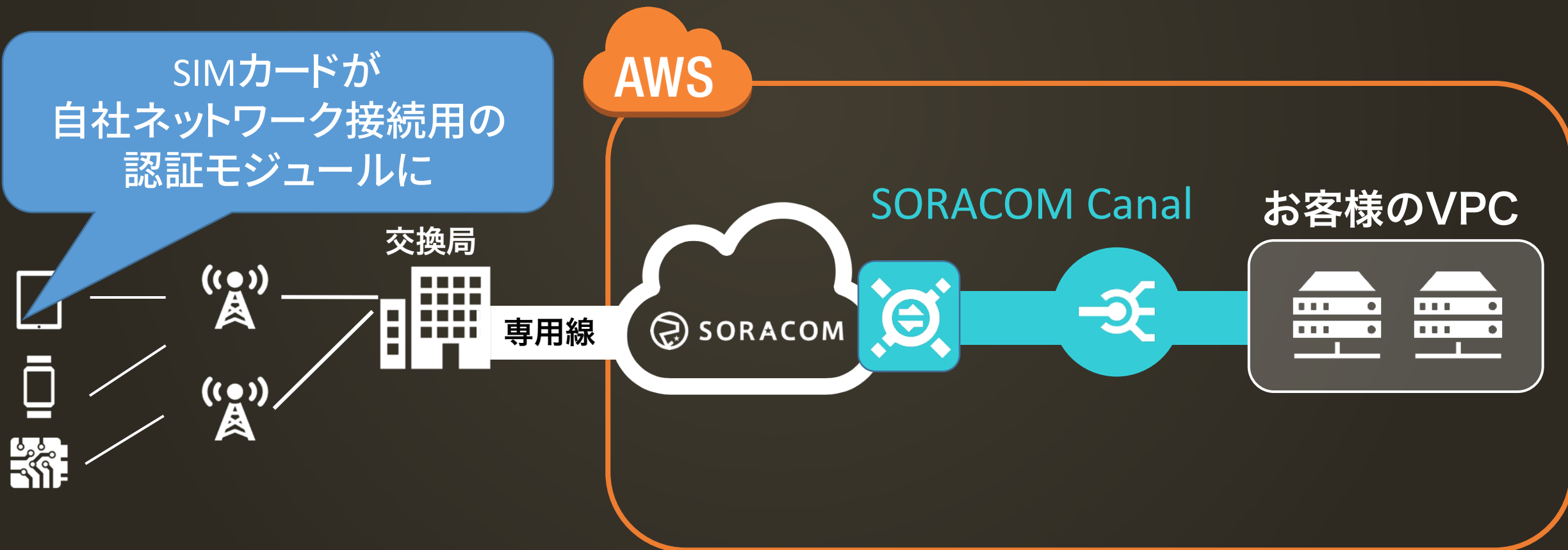
狙われるIoTシステム



SORACOM Canal - AWS 閉域網接続

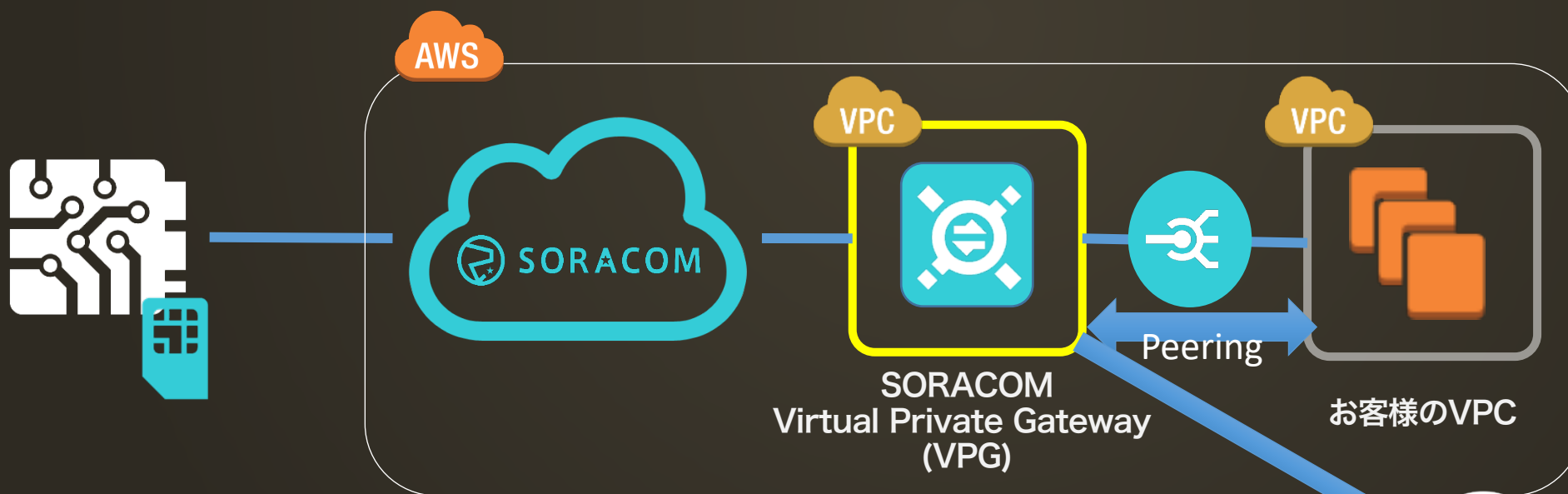
SORACOM の VPC とお客様の VPC との間で**プライベート接続**
インターネットを介さず、セキュアにデータ通信

※ VPC: Virtual Private Cloud = AWS の中でプライベートネットワークをつくるための仕組み



SORACOM Canalによる接続詳細

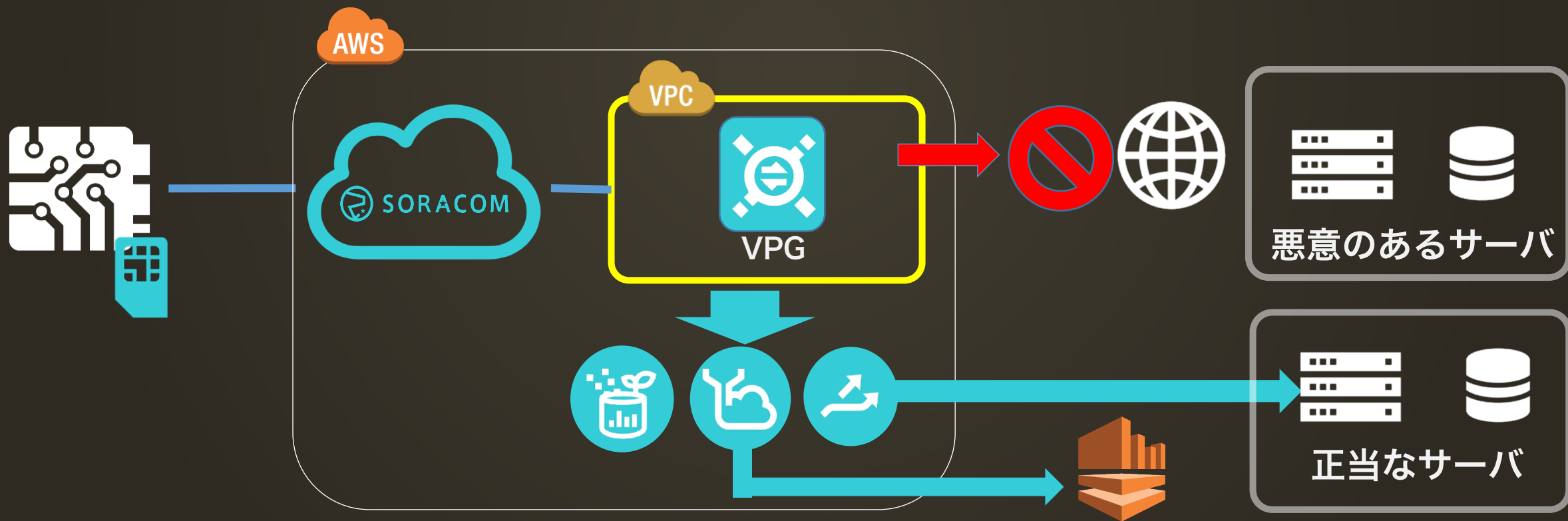
- SORACOM Virtual Private Gateway (VPG)とお客様のAmazon VPCをピアリング接続
- デバイスから、VPC内のサーバのプライベートIPアドレスに接続可能
 - VPGでNATされる



インターネットアクセスの可否を設定可能

アウトバウンドの制御

- SIMから特定の接続先にしか接続できないよう制限が可能
- デバイスが意図せず外部に接続しないようにできる



Menu



Japan

Support

sorao@soracom.jp

Register SIM

Details

Actions

Raspberry

⊗

Any

Q

▼

Items 1 - 1 (1 selected)

⚙

↺

Previous

Next

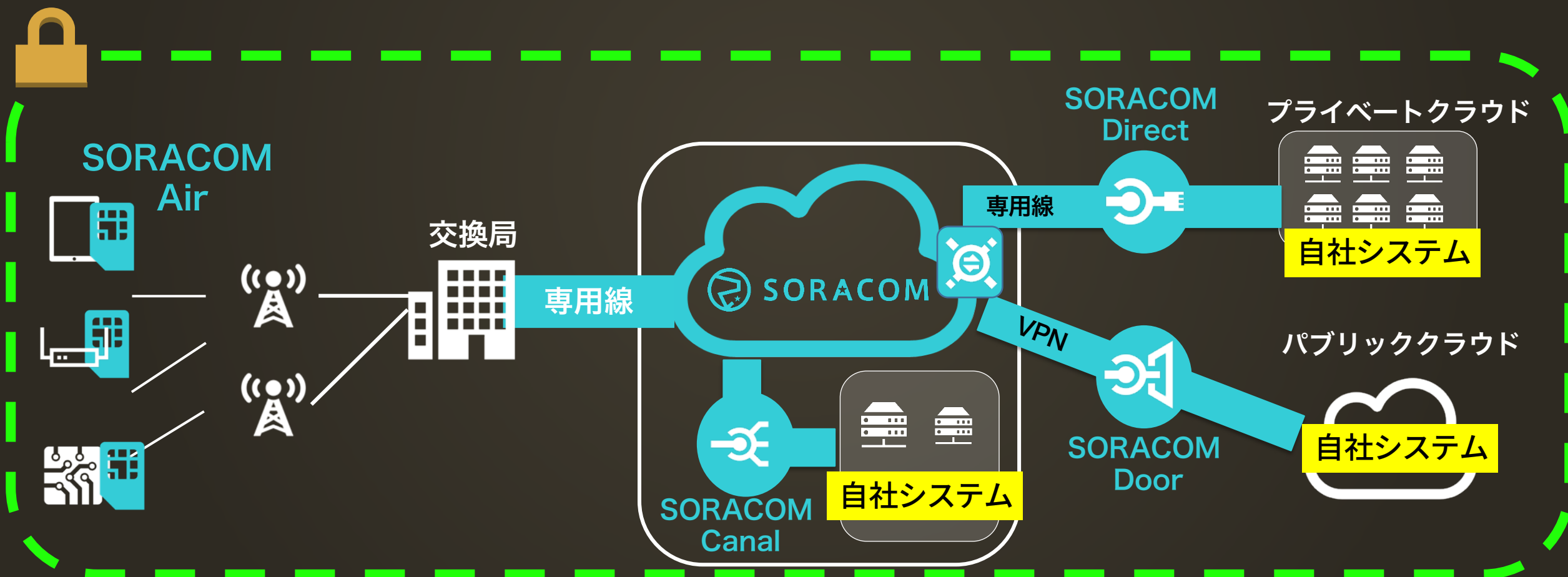
☒	Name ?	Group ?	Status ? ☒	Session ?	Plan ?	Speed class ?	Expiry Date / Time ?	IMEI Lock ?	TI
☒	RaspberryPi		Active	Online	↕	s1.fast	(Not specified)		

Items per page 100

Copyright © 2015-2018 SORACOM, INC.

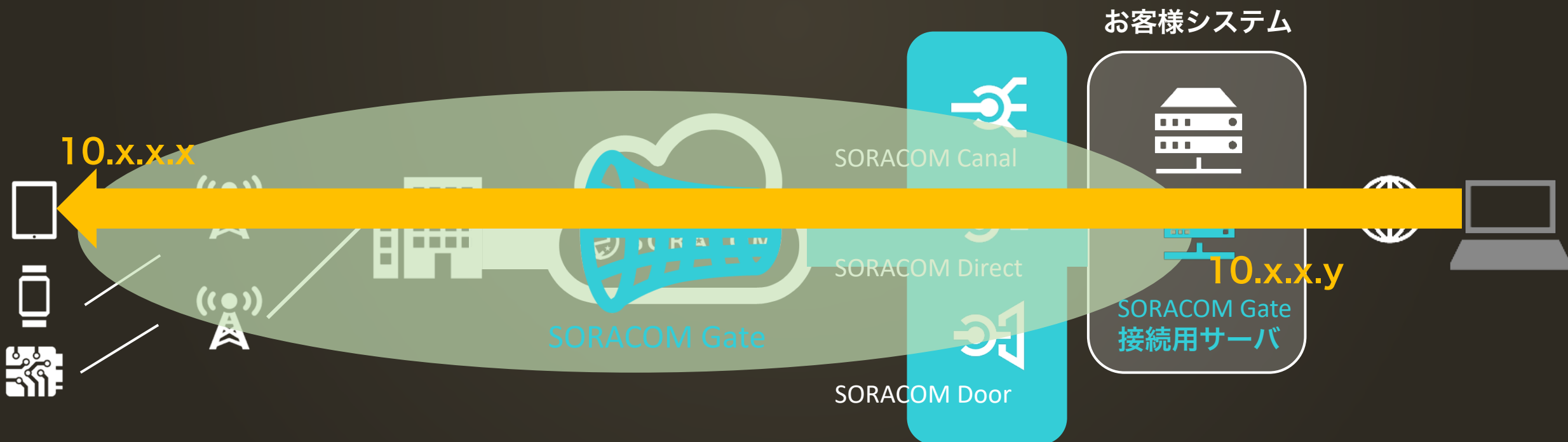
閉域網での接続

- 端末から自社システムまでの閉域網接続を容易に実現



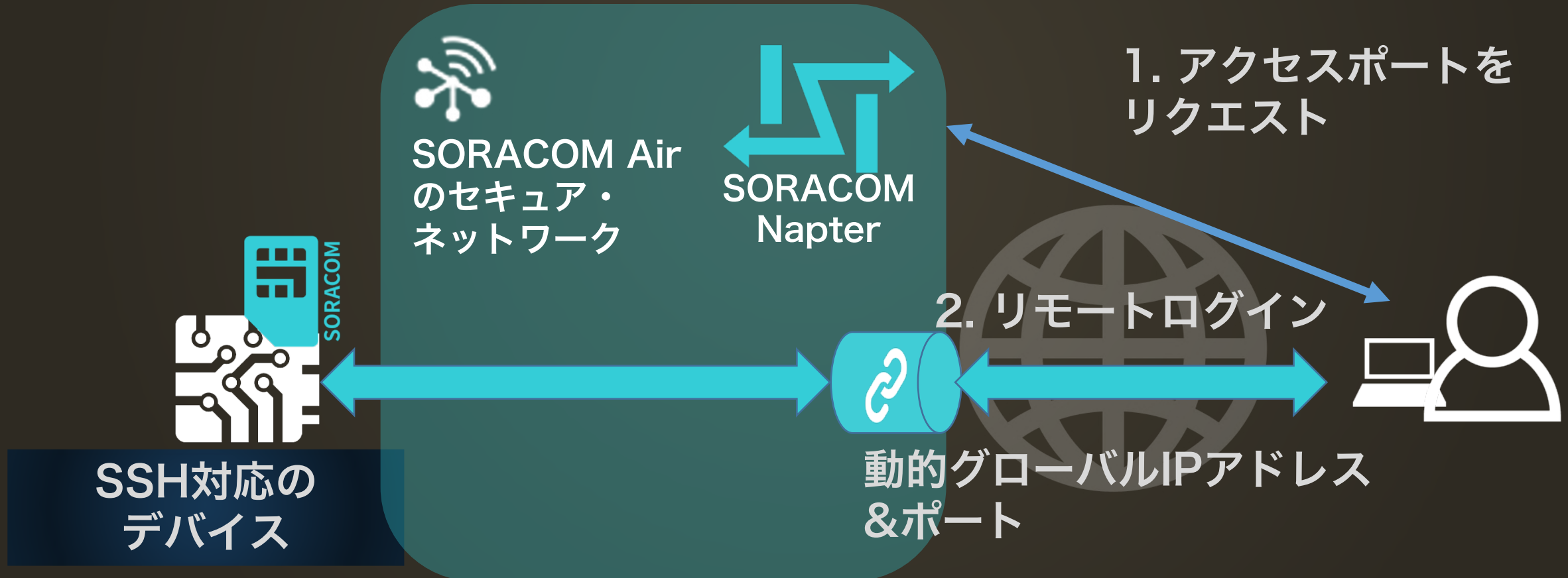
SORACOM Gate

デバイスとクラウドを1つの大きなプライベートLANに
クラウドからのリモートアクセスを可能にするサービス



SORACOM Nater

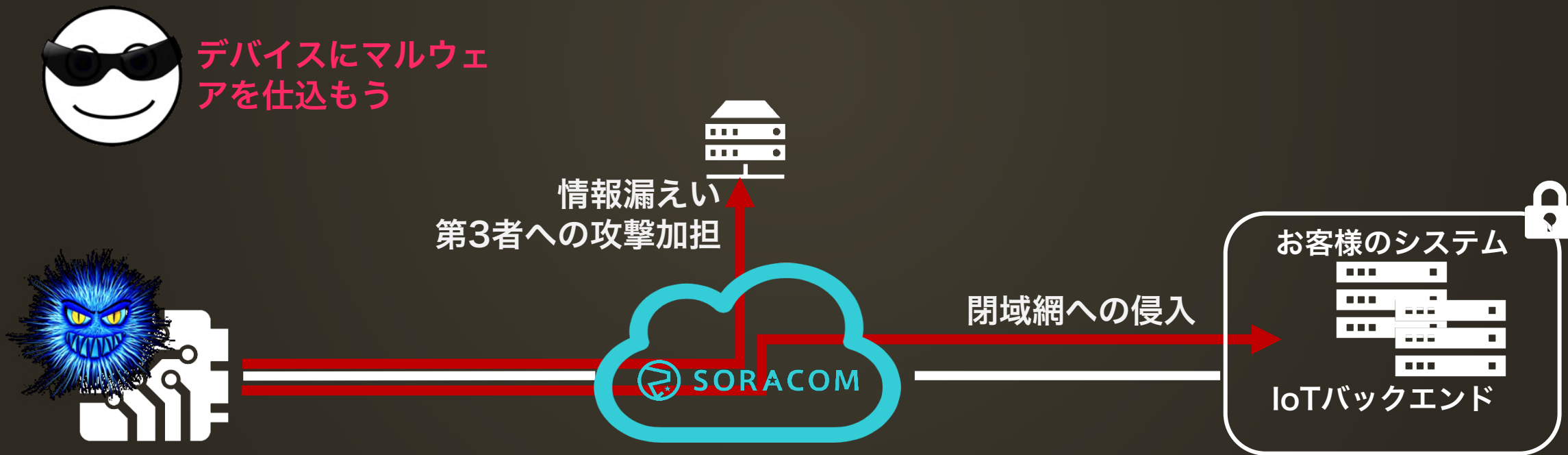
通常時は閉域、遠隔操作時だけ外部から接続



《 通信の監視・制御 》

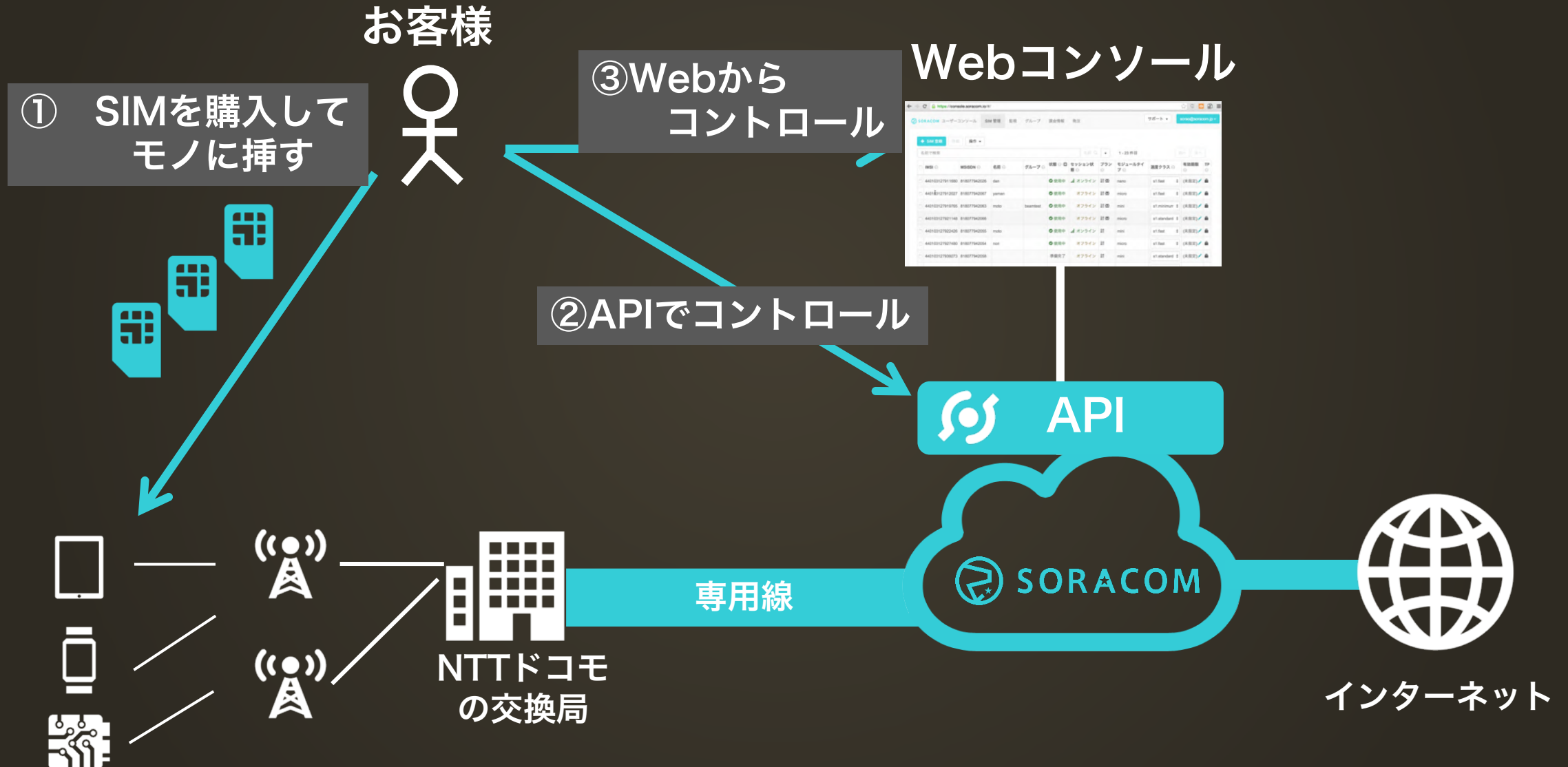
デバイスの乗っ取りリスク

- デバイスに物理的にアクセスして悪用されるリスク
- デバイス側にマルウェア等が仕込まれることのリスク



どう検知するか？

SORACOM Air



SORACOM Air

- API
 - 通信速度の変更
 - SIMの停止/解約
 - 通信量/利用料の取得
 - タグ付け
 - グループ etc
- SDK/CLIも提供

システムの自動化
SIMの一括管理

SORACOM API

SORACOM API v1

Auth

Show/Hide | List Operations | Expand Operations

POST	/auth	Authenticate Operator
POST	/auth/password_reset_token/issue	Issue Operator Password Reset Token
POST	/auth/password_reset_token/verify	Verify Operator Password Reset Token

Operator

Show/Hide | List Operations | Expand Operations

POST	/operators/{operator_id}/token	Generate Authentication Token
POST	/operators/{operator_id}/password	Update Operator Password
POST	/operators/{operator_id}/support/token	Generate Token for Support Console
POST	/operators	Create Operator
POST	/operators/verify	Verify Operator
GET	/operators/{operator_id}	Get Operator

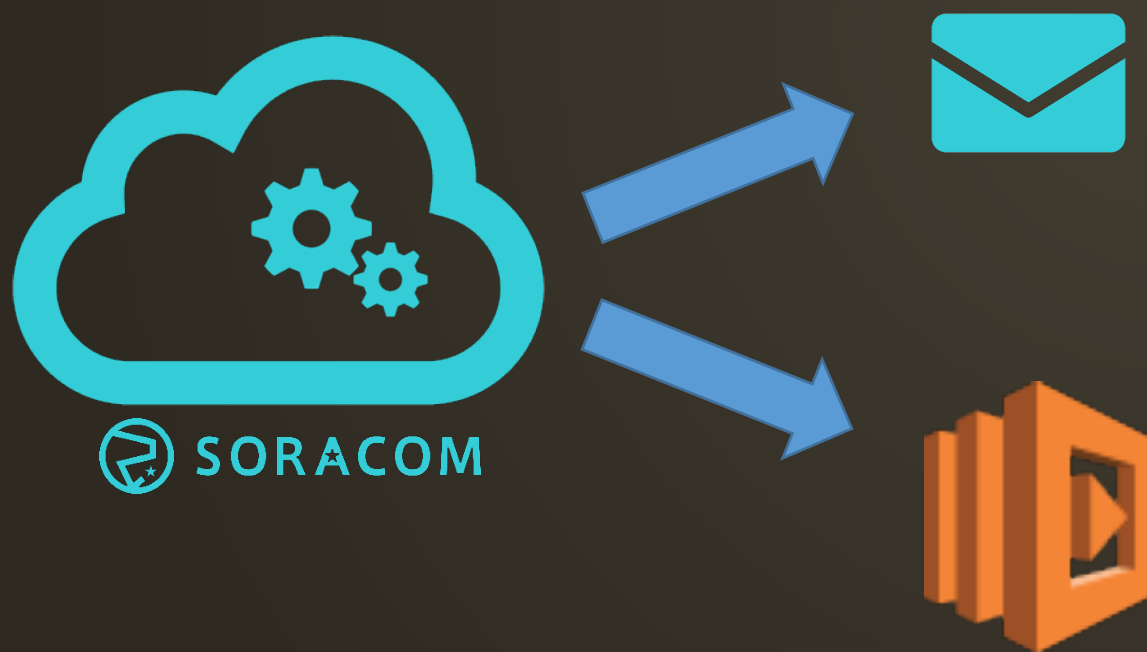
Subscriber

Show/Hide | List Operations | Expand Operations

GET	/subscribers	List Subscribers
POST	/subscribers/{imsi}/register	Register Subscriber
GET	/subscribers/{imsi}	Get Subscriber
POST	/subscribers/{imsi}/update_speed_class	Update Subscriber speed class
POST	/subscribers/{imsi}/activate	Activate Subscriber
POST	/subscribers/{imsi}/deactivate	Deactivate Subscriber
POST	/subscribers/{imsi}/terminate	Terminate Subscriber

イベントハンドラー

- 一定の条件を満たした時にアクションを起こすことが可能
- 異常な通信量を検知して通信遮断、などが可能

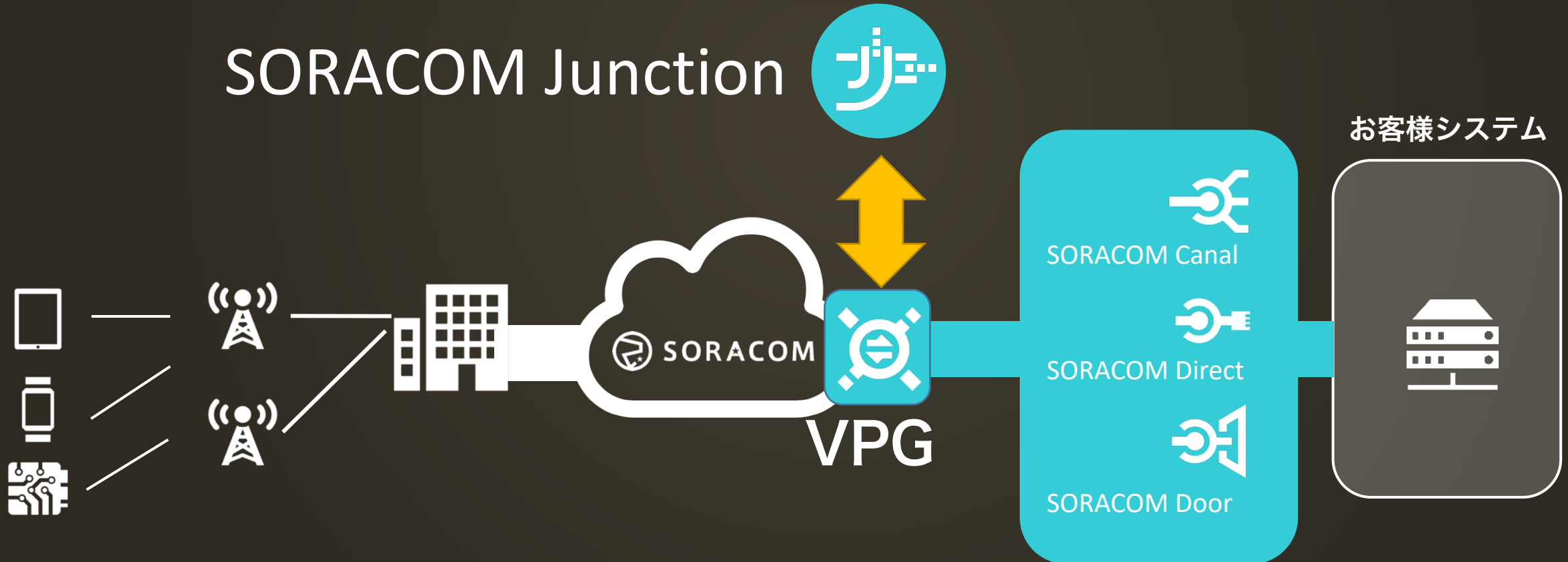


- SIMの1日の通信データ量が一定のしきい値を超えたらSIMを停止
- 通算のデータ通信量が一定のしきい値を超えたらSIMを解約

SORACOM Junction

SIMの通信を透過型にトラフィック分析・処理できるサービス

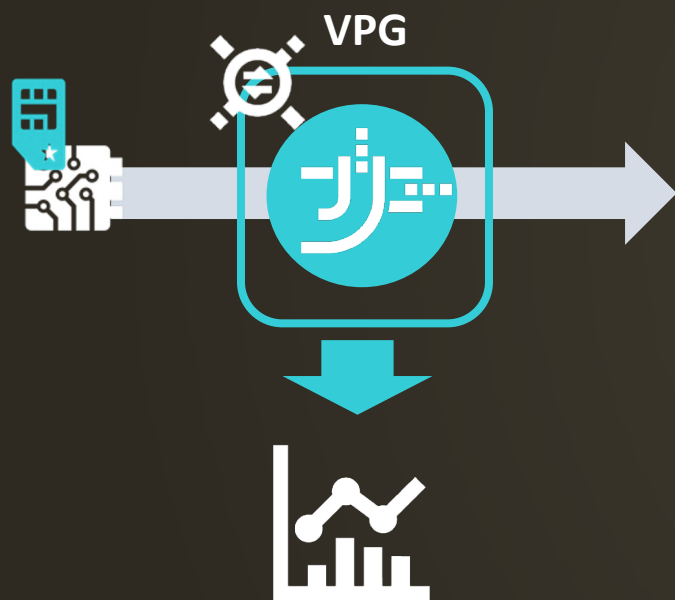
SORACOM Junction



SORACOM Junction

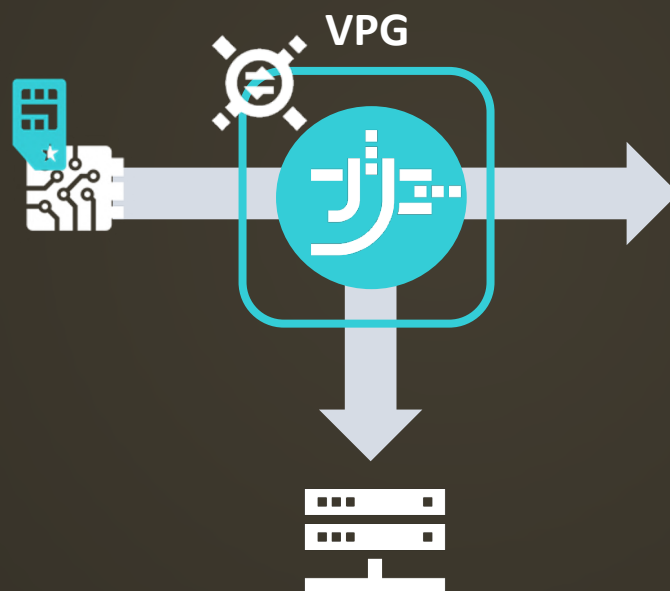
3つのトラフィック処理機能

Inspection



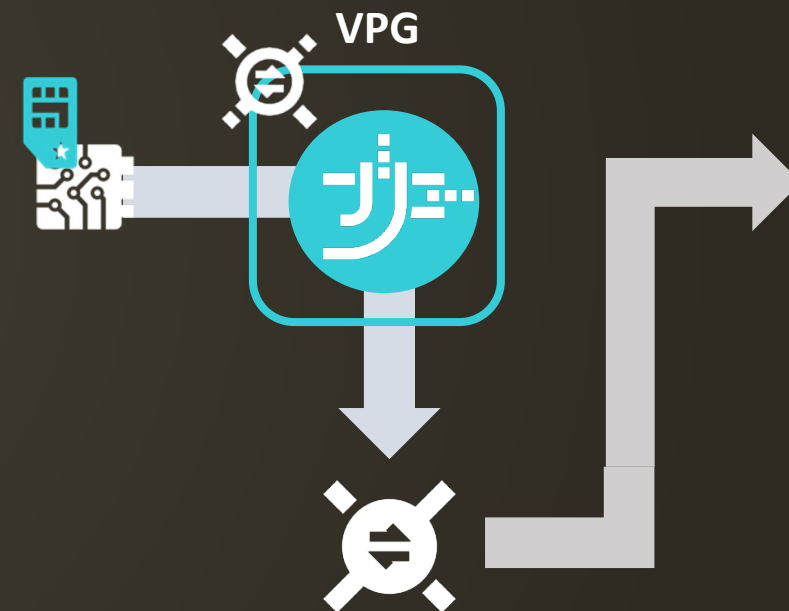
パケットフローを
解析して
統計情報を出力

Mirroring



パケットの
コピーを指定の
宛先に転送

Redirection

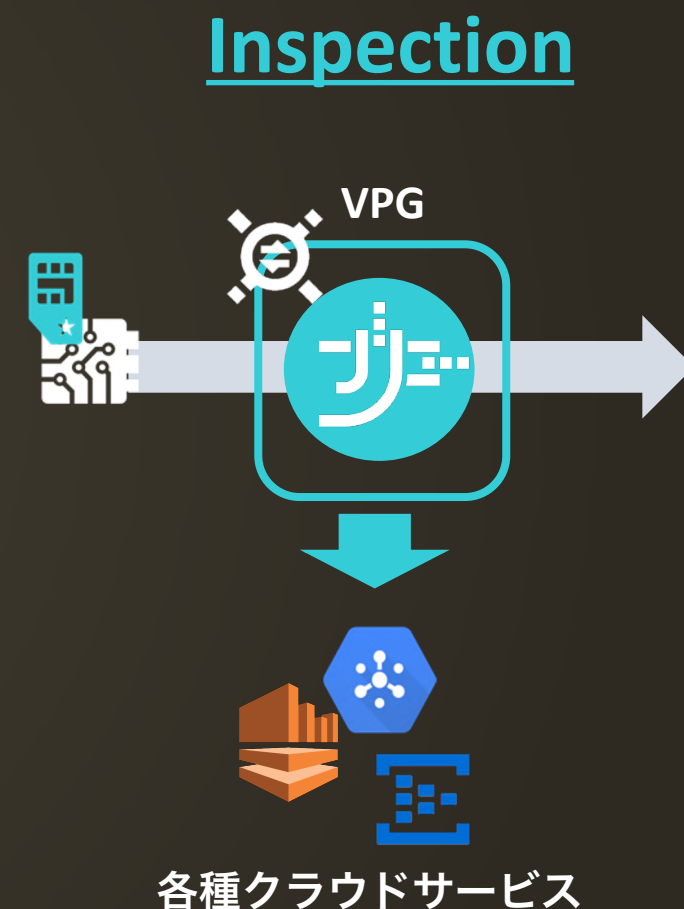


パケットを指定の
ゲートウェイ経由に
転送

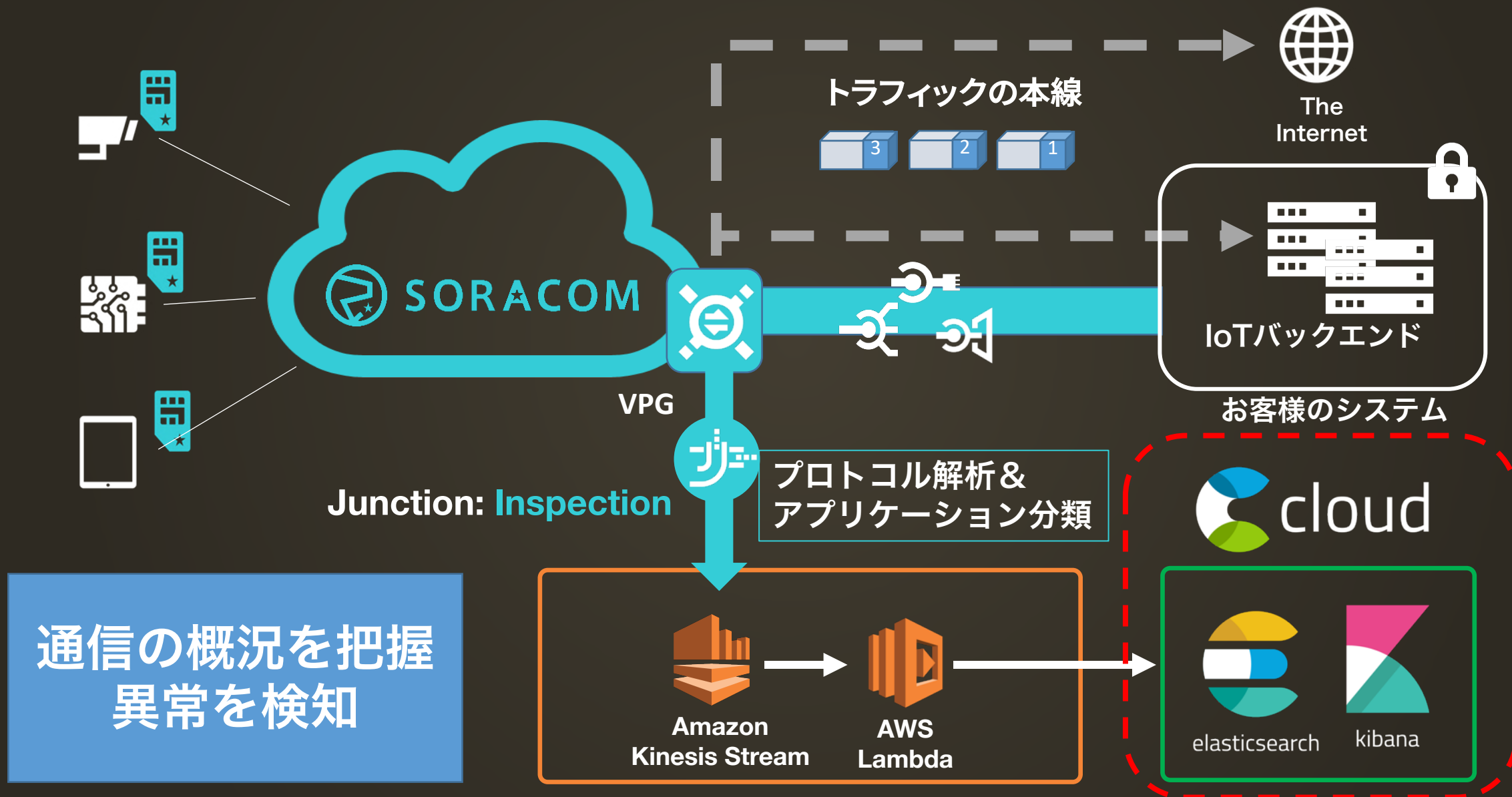
Inspectionの動作詳細

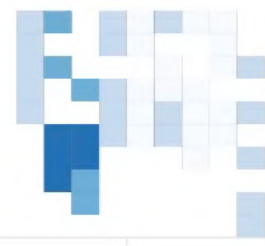
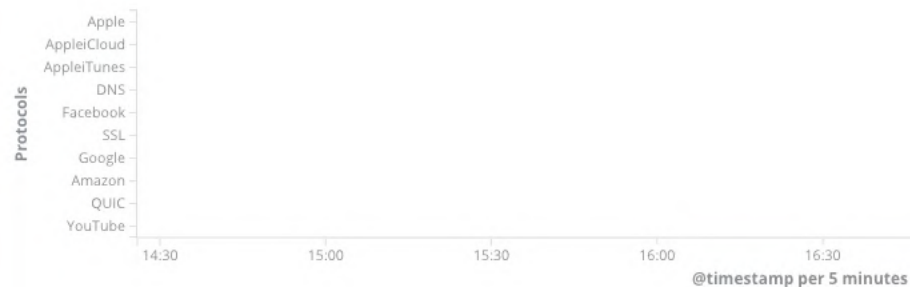
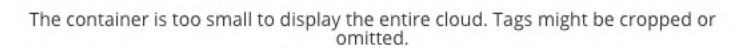
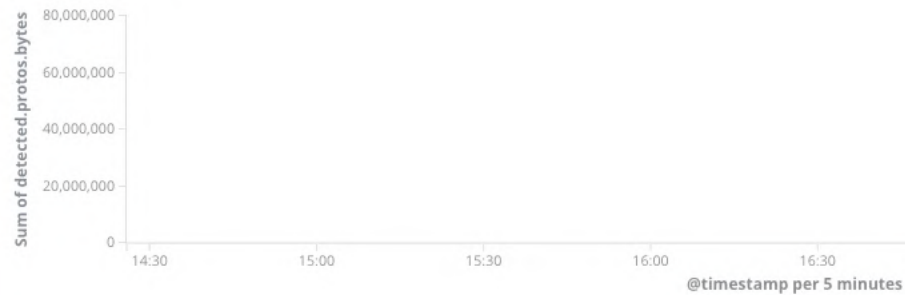
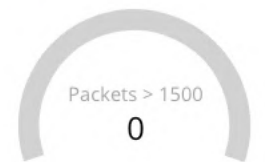
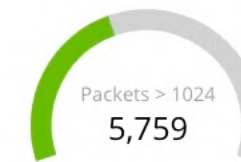
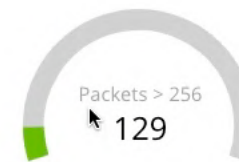
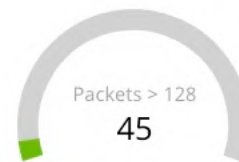
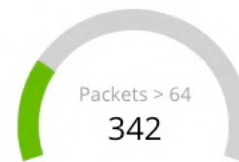
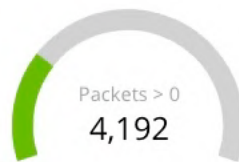
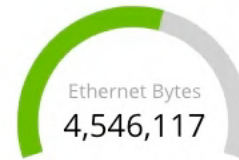
- 一定間隔でトラフィックを収集・分類して統計情報を計算
 - パケットサイズ、データサイズ
 - プロトコル
 - 接続先など
- 出力はJSONフォーマット
- SORACOM Funnelが対応するサービスに出力
 - サービス
 - リソースID
 - クレデンシャル

これらをFunnel同様に
設定すれば出力開始



SORACOM Junction: Inspection

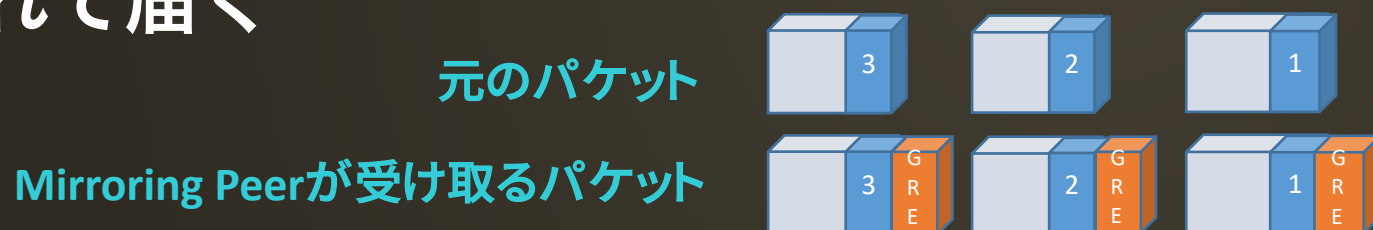




Mirroringの動作詳細

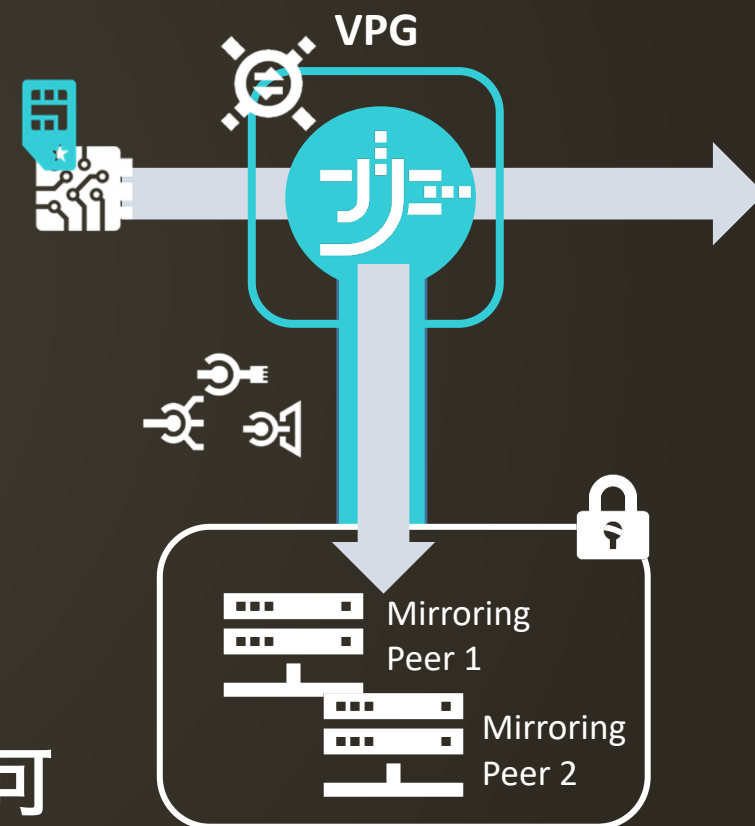
- Canal / Direct / Door接続されたホストをMirroring Peerとして追加
 - 2ホストまで登録可

- コピーされたパケットはGREでカプセル化されて届く

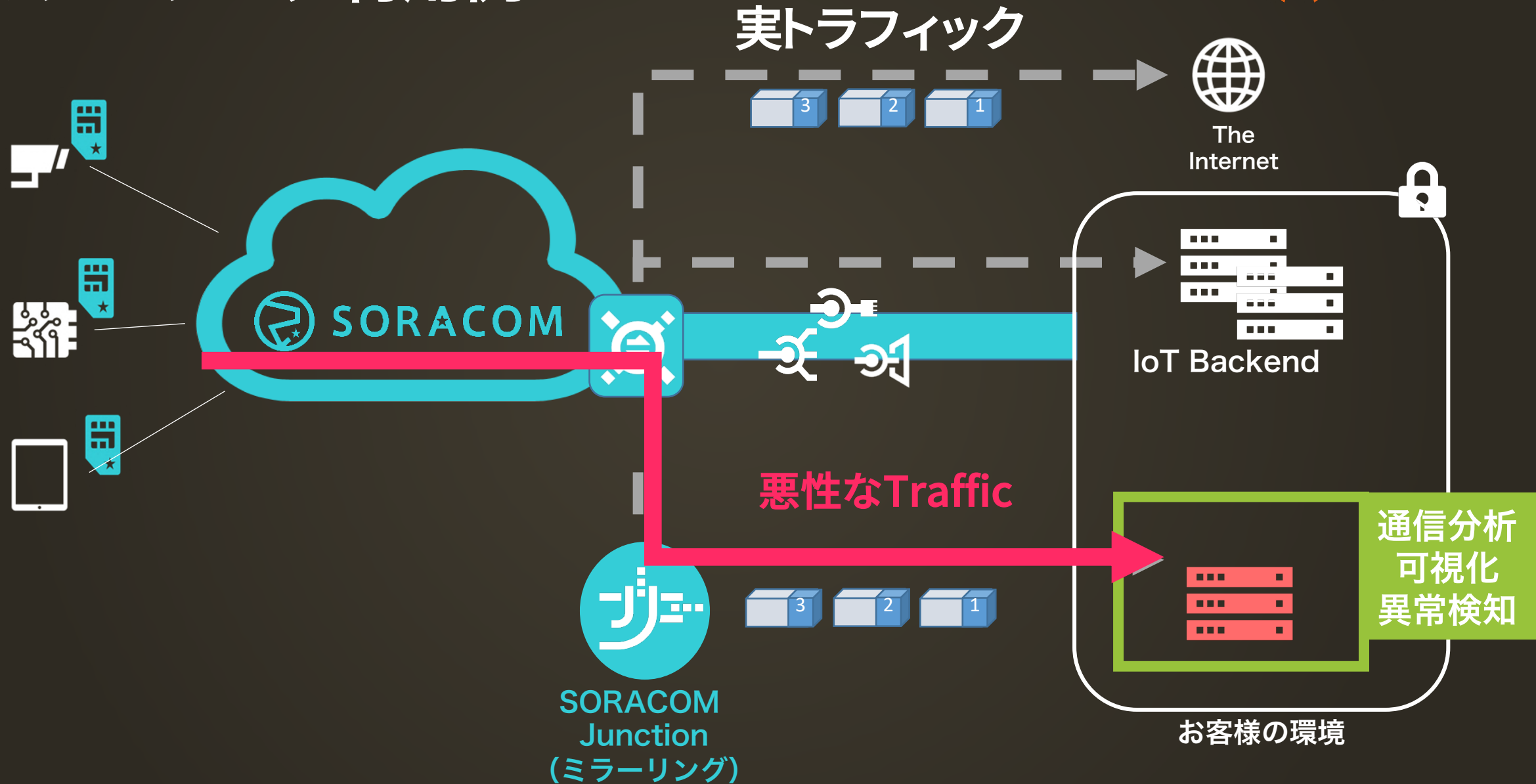


- Mirroring PeerはGREを受信できるように設定することでトラフィックをモニタリング可

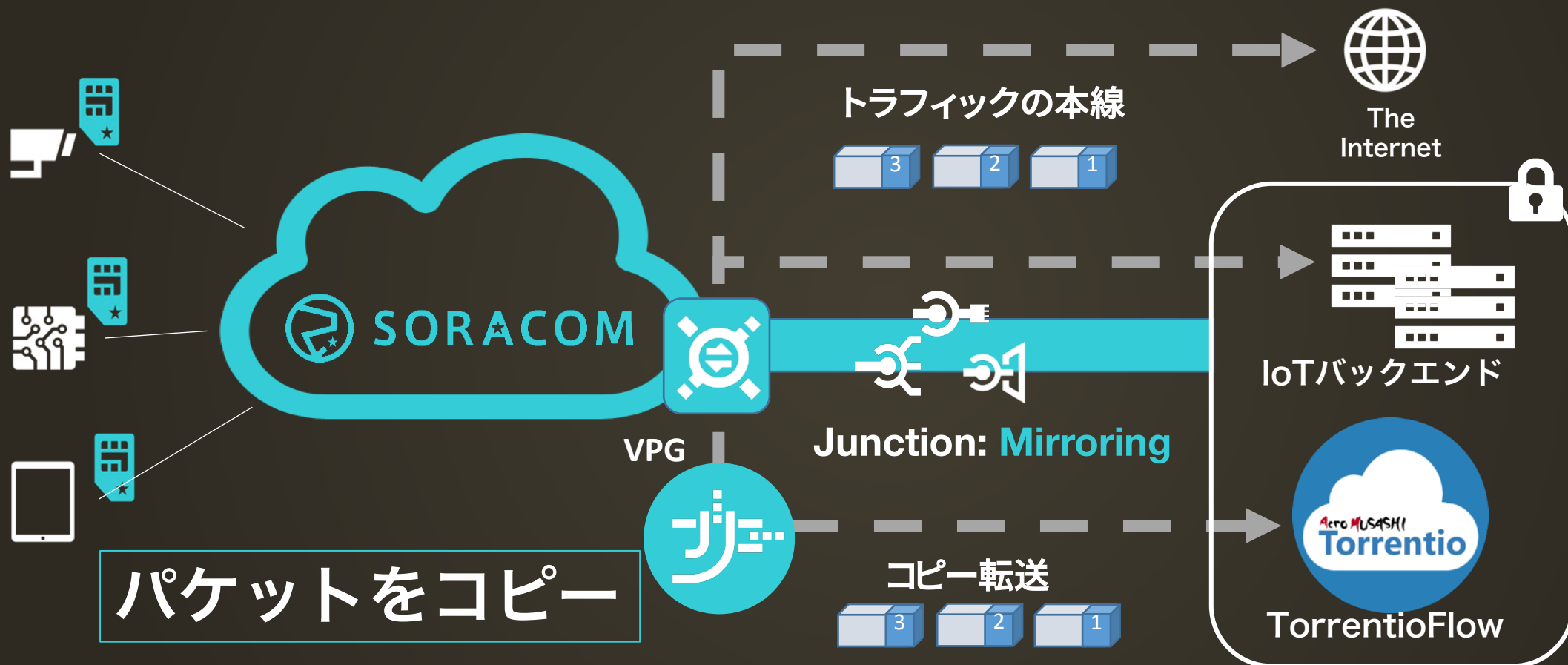
Mirroring



ミラーリング利用例



パートナー様ソリューションの利用例



- ・ 個別フローのリアルタイム分析・可視化
- ・ 機械学習による異常検知・リスク分析
- ・ 異常の通知

パートナー様ソリューションの利用例

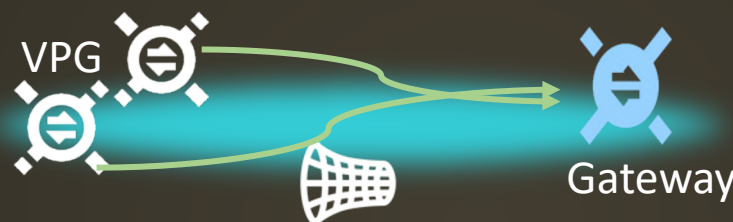


- ・ 個別フローのリアルタイム分析・可視化
- ・ 機械学習による異常検知・リスク分析
- ・ 異常の通知

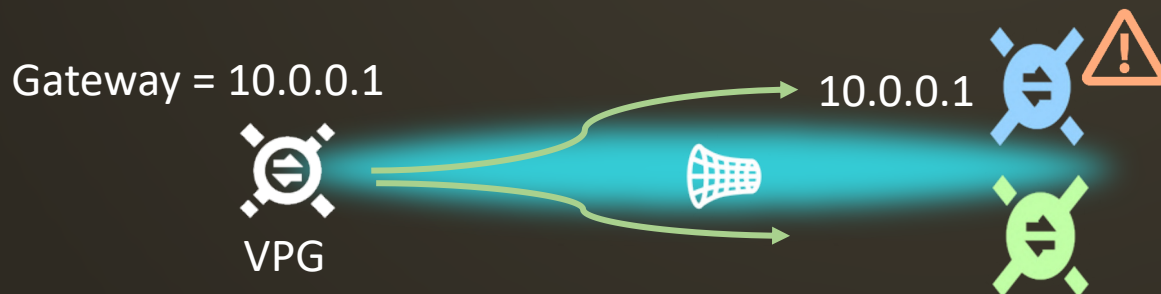
Redirectionの動作詳細

- 仮想L2サブネット上のPeerをGatewayとしてパケットを転送

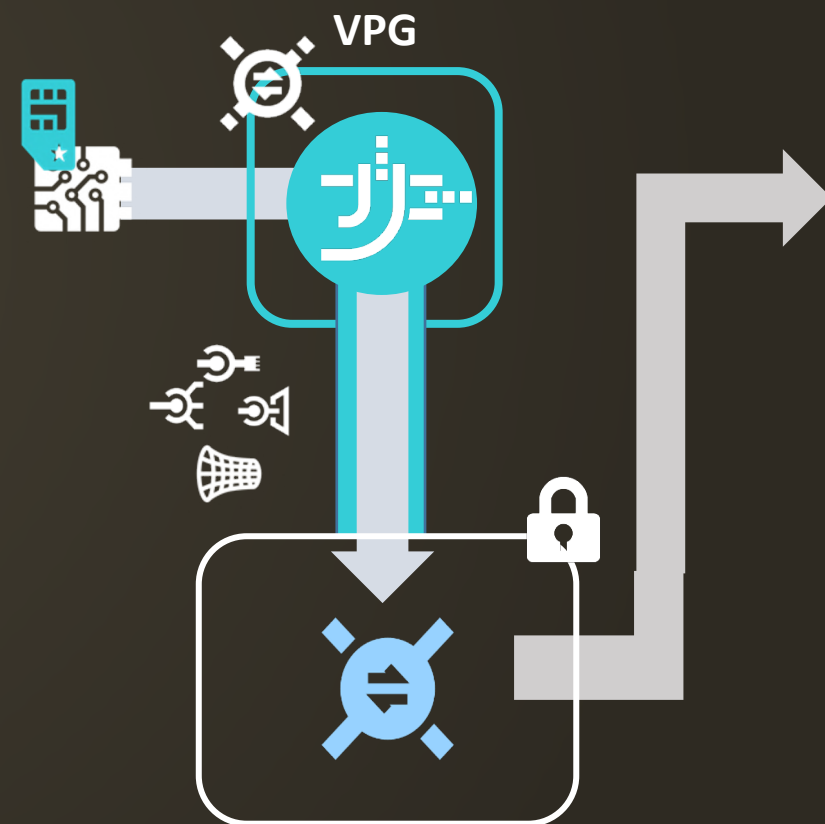
- vxlanに対応



- 指定できるGateway Peerは1つ
 - トラフィック制御点を1つに
 - 障害対応はスタンバイノードへのアドレス付け替えで可

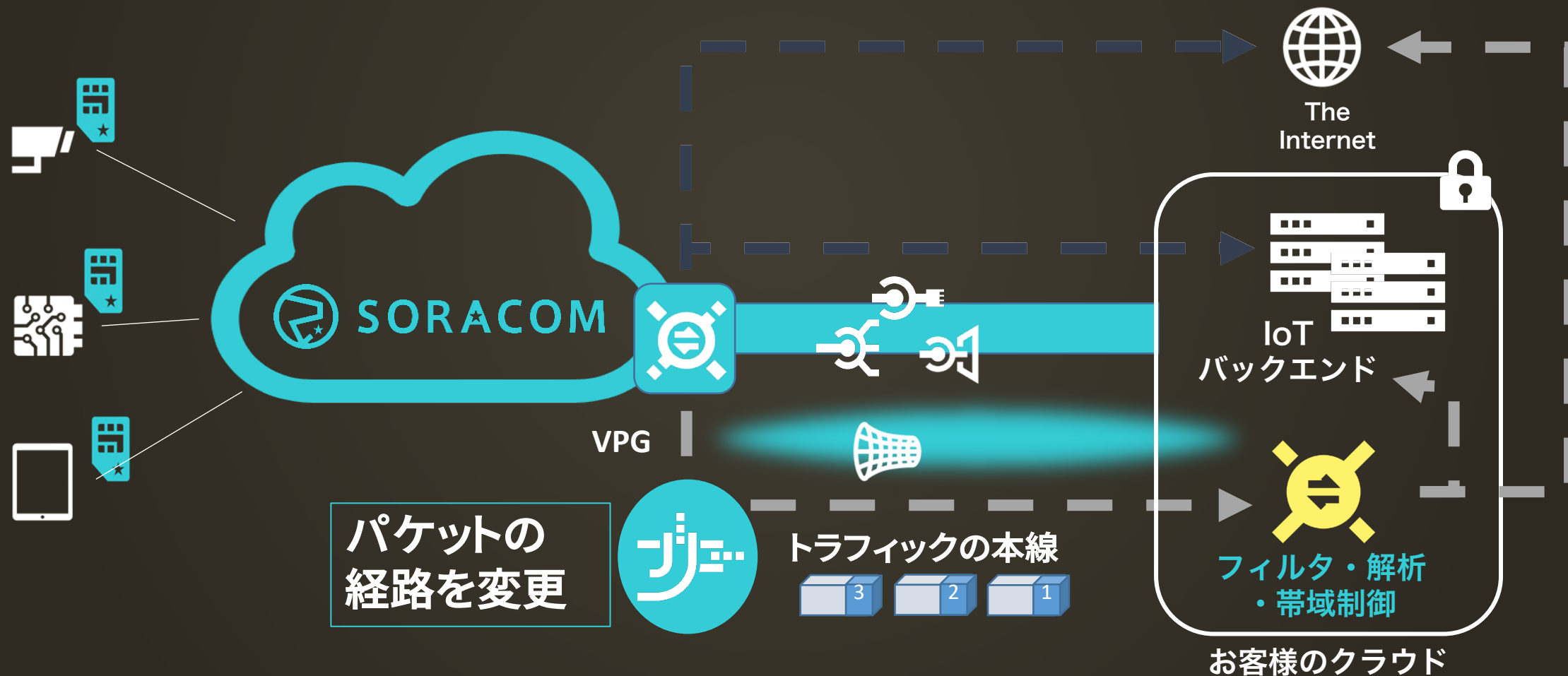


Redirection



SORACOM Junction: Redirection

- ・パケットを指定のゲートウェイ経由で転送

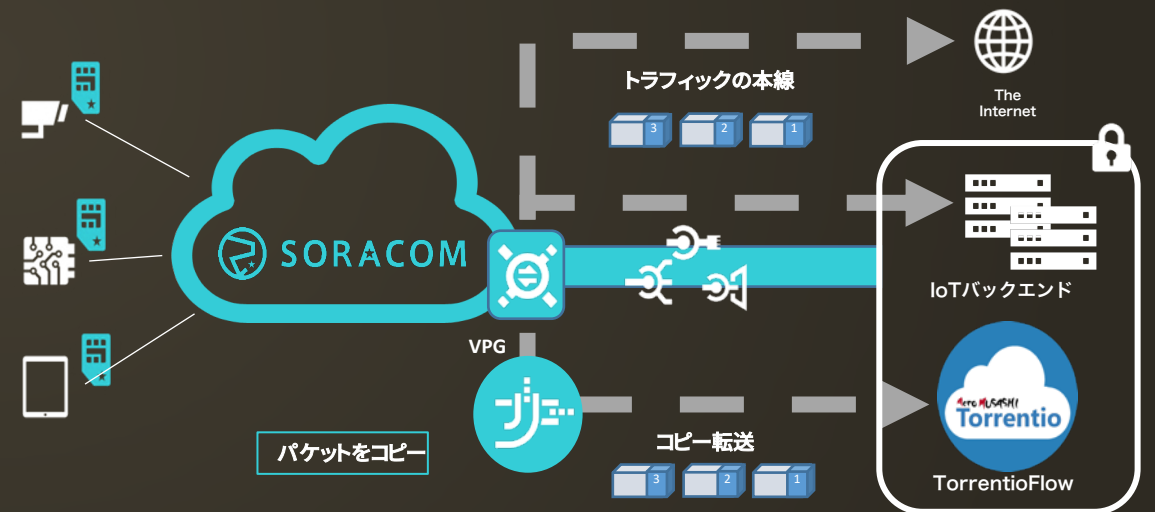
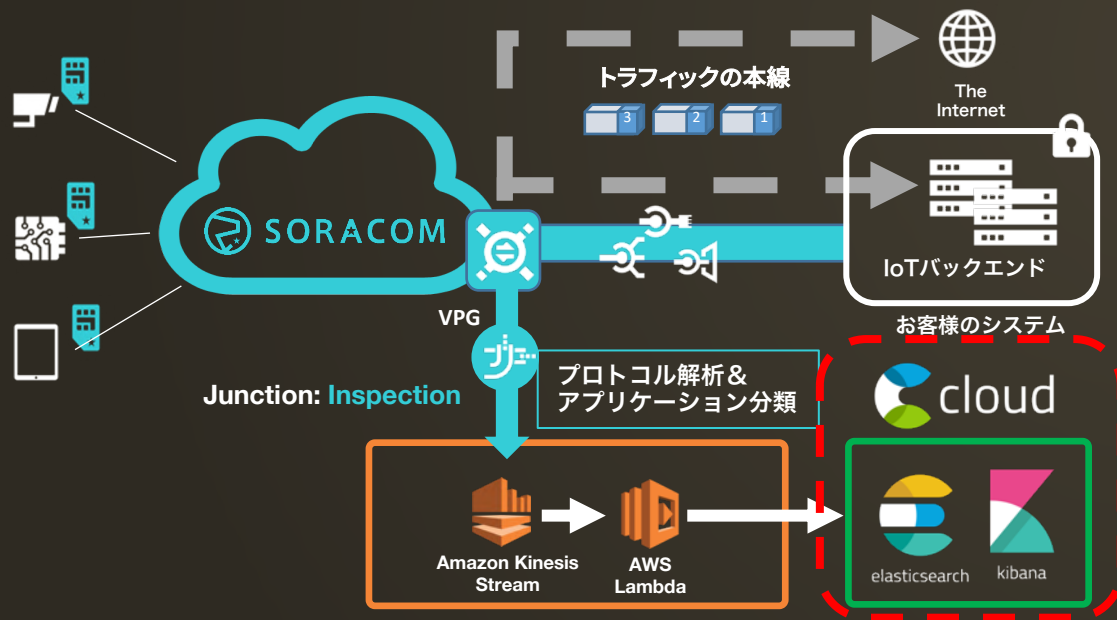


Junctionパートナーソリューション例

- Junction: **Mirroring**による**DPI、IPS、可視化**
 - Palo Alto Networks社
 - VM-Series
 - Sandvine社
 - Procera PacketLogic

Junctionを利用したパケット解析

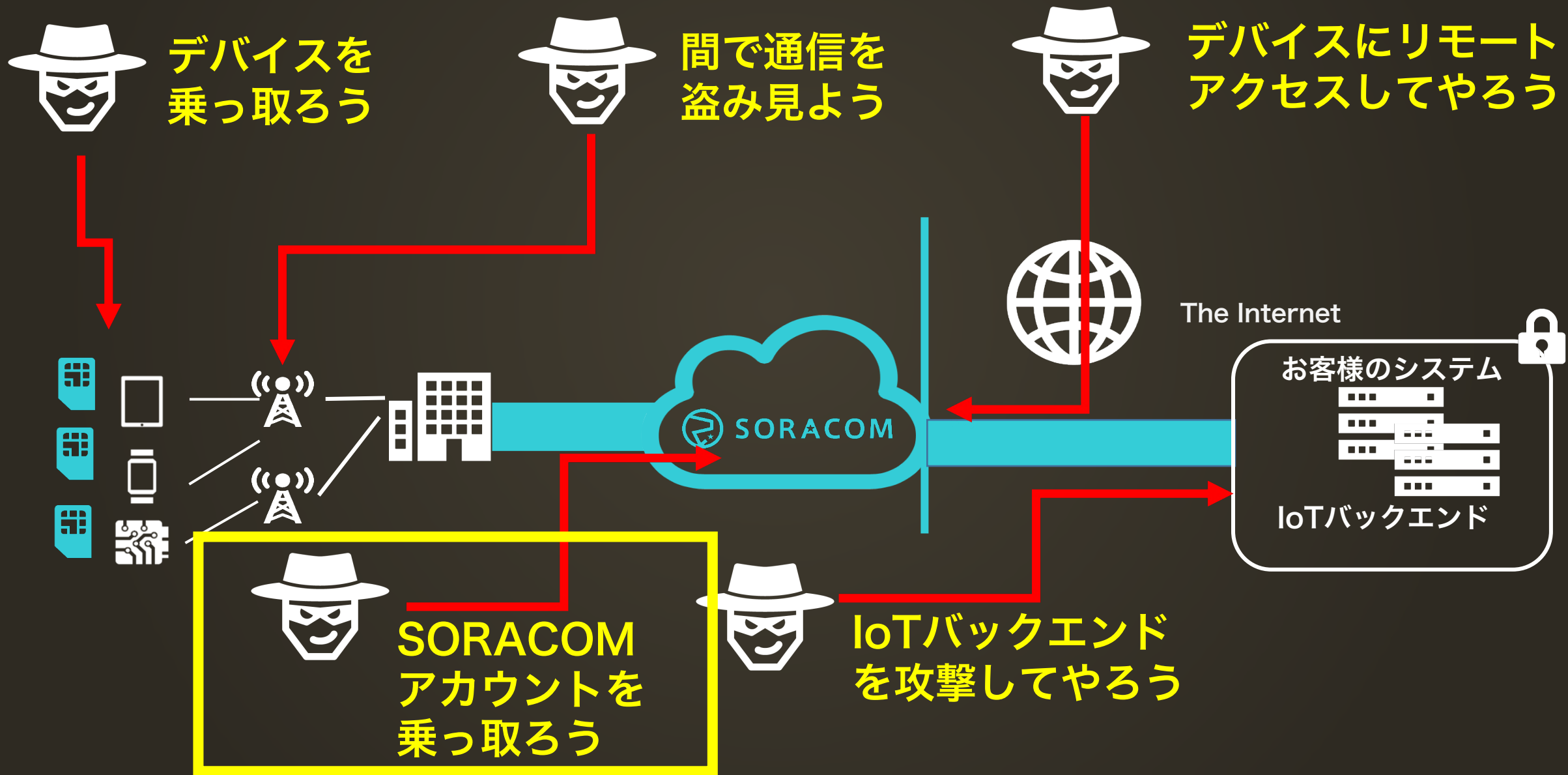
パートナーソリューションと組み合わせることで、
デバイスの異常検知や乗っ取り検知が可能



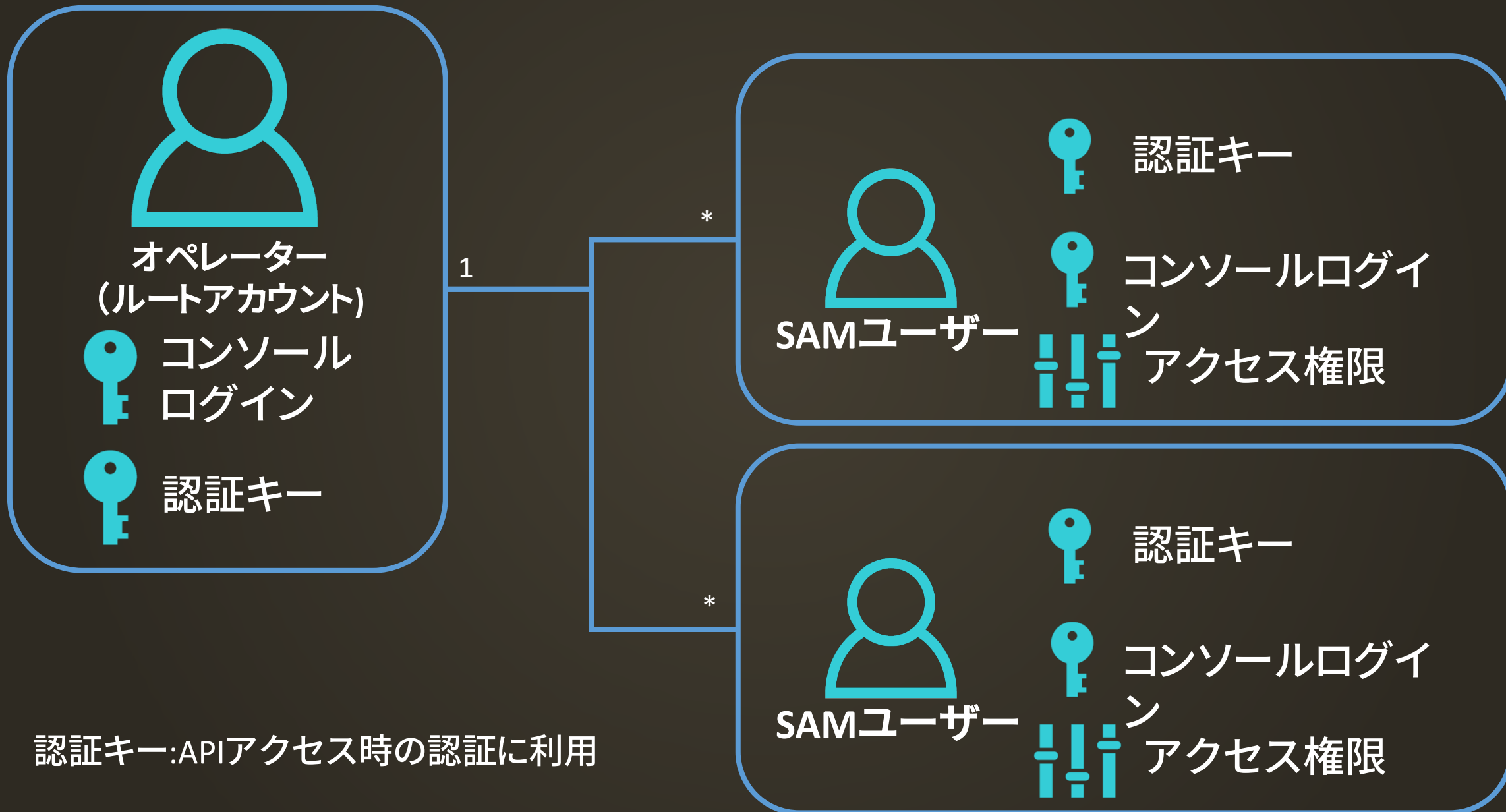
- ・ 個別フローのリアルタイム分析・可視化
- ・ 機械学習による異常検知・リスク分析
- ・ 異常の通知

《 SORACOMアカウントの保護 》

狙われるIoTシステム



SORACOMアカウントの構成



認証キー:APIアクセス時の認証に利用

SORACOM Access Management

子ユーザーを作成し、認証情報とAPI単位の権限管理ができる



The screenshot shows the SORACOM Access Management interface. The top navigation bar includes the SORACOM logo and tabs for SIM 管理, 監視, グループ, 課金情報, 発注, セキュリティ (selected), and サポート. On the left, a sidebar contains links for ユーザー, ロール, and 認証情報ストア. A '+ ユーザー作成' button is located above a table of users.

名前	概要
developer	開発用ユーザー
my-user	SAMユーザー
payment	経理用
test	テストユーザー
yaman	開発者

ユーザーごとのアクセス権限管理(例)



- 開発者
 - コンソールログインと認証キーを許可
 - SIMの解約はNG



- 監視プログラム
 - 認証キーのみ許可
 - GETメソッド（読み取り）のみ許可



- 調達担当
 - コンソールログインのみ可能
 - 課金と発注のみ利用可能
 - SIM操作は一切NG

SORACOMアカウントのMFA機能

コンソールログイン時にMFA(多要素認証)が利用可能

多要素認証を有効にする



otpauth://totp/SORACOM:OP9999999999?secret=XXXXXXXXXXXX&issuer=SOI

Google Authenticator 等の多要素認証ツールで QR コードを読み取り、表示された認証コードを入力して下さい。

認証コード:

123456

有効にする

キャンセル

SORACOM ユーザーコンソール

サービス稼働状況

日本語 ▾

SORACOM アカウントにログイン

MFA が有効になっています。コードを入力してください。

MFA 認証コード

ログイン

キャンセル



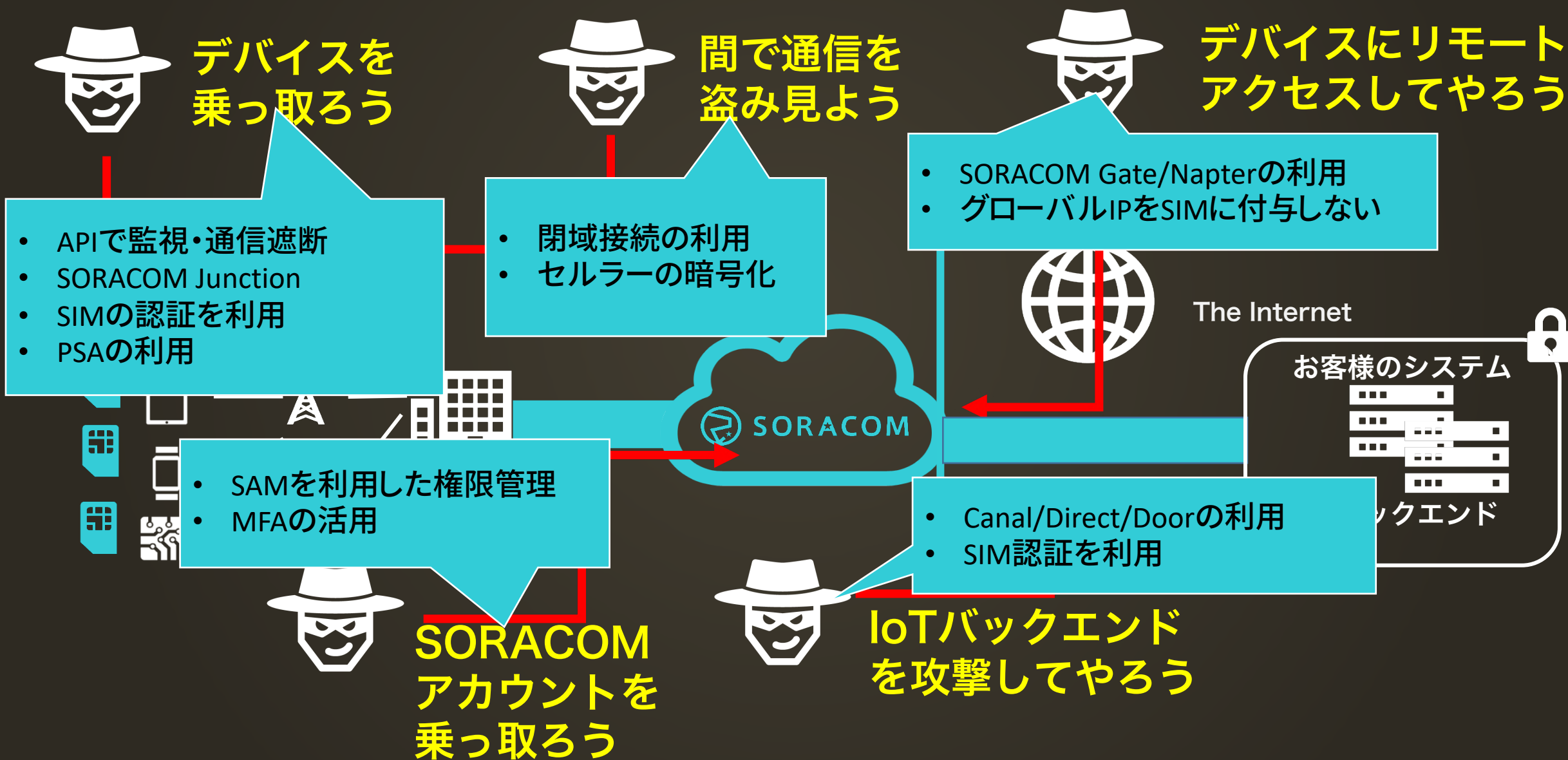
"Discovery"
2018

IoT の最先端がここに集結！
ソラコム の 1Day カンファレンス

7/4 (水) ANA インターコンチネンタル東京

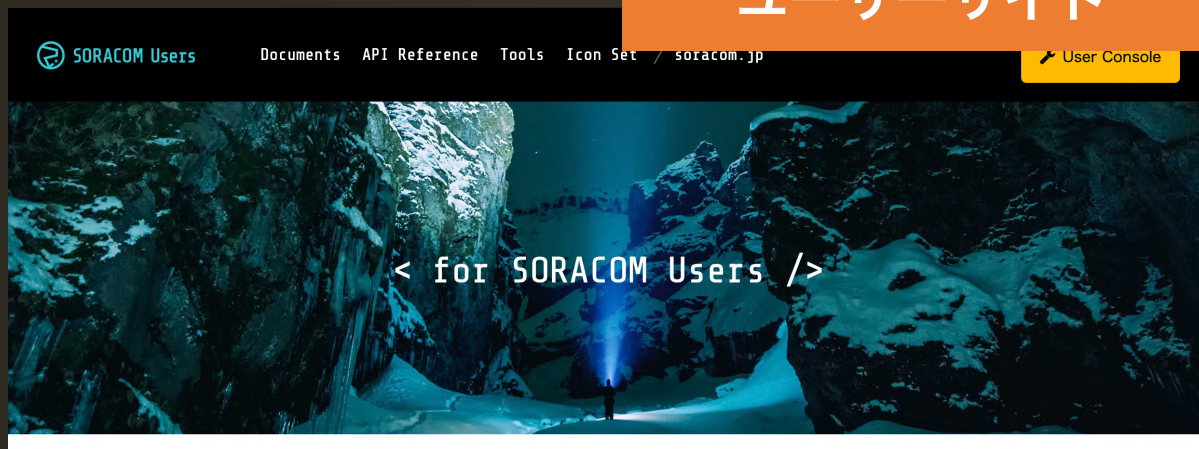
《 まとめ 》

狙われるIoTシステム



ユーザーサイト・ブログのご紹介

ユーザーサイト



<https://dev.soracom.io/jp/>

各サービスのGetting Started
を用意しています

SORACOM ブログ



<https://blog.soracom.jp/>

最新の技術情報アップデートを
いち早くお届けします

クラウド ⇒ 多くのビジネス、Webサービス
SORACOM ⇒ 多くのIoTビジネス、システム

たくさんの
IoTプレイヤーが生まれますように

世界中のヒトとモノをつなげ
共鳴する社会へ



SORACOM